

Honeywell

HF800

固定式
バーコード・リーダー

ユーザーズガイド
固定式バーコード・リーダー

目次

概要	5
本書について.....	5
モデルの説明.....	5
パッケージ内容.....	7
付属品.....	7
ヒューマン・マシン・インターフェイス.....	10
電気特性.....	11
機械寸法.....	14
光学特性.....	16
はじめに	18
取り付けおよび配置.....	18
接続.....	18
イーサネットに接続する.....	18
RS232 に接続する.....	18
RS485 に接続する.....	19
DataMax®の設定プログラムをインストールする.....	19
DataMax の配布内容.....	19
ハードウェア要件.....	20
ソフトウェア要件.....	20
インストール方法.....	20
DataMax のユーザー・インターフェイスの概要.....	24
デバイス・リスト領域.....	24
コントロールおよびヘルプ・パネル.....	25
メイン・メニューおよびツールバー.....	25
デバイスを検出する.....	25
イーサネット上で検出する.....	26
シリアル・ポートで検出する.....	27
デバイス情報の説明.....	28
イメージング設定および統計.....	28
ライブ・ビュー.....	29
ログ・ビュー.....	29
統計.....	30
イメージング設定.....	30
エイマーと照明.....	31
自動トレーニング.....	32
画像切り取り.....	33
画像の保存.....	33
チャート・パネル.....	34
設定を読み込む／保存する.....	35
すべてデフォルトに戻す.....	37
通信インターフェイスの設定	38
ネットワーク設定.....	38
ネットワークのグループ化（マスター／スレーブ）.....	41
シリアル・インターフェイスの設定.....	43
操作モード	44
Streaming Presentation モード.....	45

Presentation (プレゼンテーション) モード.....	45
External Trigger (外部トリガー) モード.....	46
External Trigger Delay (外部トリガー遅延)	46
リモート・コマンドを介してトリガーする	46
One Shot (1 回) モード.....	47
Burst (バースト) モード.....	47
Continuous (連続) モード.....	47
Internal Trigger (内部トリガー) モード.....	48
シンボル体系	48
メッセージ長の説明.....	49
1 次元シンボル体系.....	49
すべての 1 次元シンボル体系を有効/無効にする	49
Code 11.....	50
Code 128.....	50
Code 39.....	51
Interleaved 2 of 5.....	53
GS1-128.....	53
Codabar.....	54
Code 93.....	54
UPC-A.....	55
UPC-E.....	56
EAN-8.....	57
EAN-13.....	57
MSI.....	58
GS1 DataBar Omnidirectional.....	58
GS1 DataBar Limited.....	59
GS1 DataBar Expanded	59
スタック・シンボル体系.....	60
すべてのスタック・シンボル体系を有効/無効にする	60
PDF417	60
MicroPDF	61
Codablock A.....	61
Codablock F	61
2 次元シンボル体系.....	62
すべての 2 次元シンボル体系を有効/無効にする	62
Aztec.....	62
MaxiCode	63
QR Code	64
DataMatrix.....	64
HanXin	65
デコーダー設定.....	66
一般設定.....	66
Re-read Delay (リリード・ディレイ)	66
Read Timeout (読み取りタイムアウト)	66
Good Read Delay (読み取り成功時の遅延)	66
Decode Timeout (デコード・タイムアウト)	67
DPM サポート	67

Show No Read (読み取り失敗を表示)	67
アウトプット・シーケンス	67
アウトプット・シーケンスの概要	67
アウトプット・シーケンスの設定パネル.....	68
入出力設定	70
入力チャンネル設定.....	70
極性とデバウンス時間.....	70
出力チャンネル設定.....	71
データ編集とフォーマット	71
プレフィックス／サフィックスの概要.....	72
プレフィックス／サフィックスの選択.....	72
データ・フォーマット・エディターの概要.....	74
データ・フォーマットを追加する.....	74
アドバンス・モード (コマンド・ライン)	76
メンテナンス	77
ファームウェアのアップグレード.....	77
トラブルシューティング	78
カスタマー・サポート	80
技術支援.....	80
製品サービスおよび修理	80
限定保証.....	80
付録 A	82

概要

本書について

このユーザーズガイドでは、HF800 固定式バーコード・リーダーのインストールとプログラミングの方法について説明しています。

また、製品仕様、寸法、保証、およびカスタマー・サポート情報についても記載しています。

リーダーが正常に機能するようにするには、DataMax 設定ツールを使用してリーダーを設定することをお勧めします。

モデルの説明

HF800 のモデル・タイプは、水平モデルと垂直モデルに分けることができます。

各モデル・タイプには、異なる DOF 要件に適合するように、HD、SR、および ER の各バージョンがあります。以下の表に、HF800 バーコード・リーダー・シリーズをすべて表示します。

SKU	説明
HF800HD-1-1H	キット、黒、HD、イーサネット、標準カメラ
HF800SR-1-1H	キット、黒、SR、イーサネット、標準カメラ
HF800ER-1-1H	キット、黒、ER、イーサネット、標準カメラ
HF800HD-1-1V	キット、黒、HD、イーサネット、垂直方向カメラ
HF800SR-1-1V	キット、黒、SR、イーサネット、垂直方向カメラ
HF800ER-1-1V	キット、黒、ER、イーサネット、垂直方向カメラ

1. 水平モデル

水平モデル・タイプは、ほとんどのユース・ケースで使用されます。このモデルではレーザー・エイマーを提供しており、これはデコーディング領域の中心位置を見つける際に役立ちます。





- | | | |
|--------------|------------------------|-------------------|
| ①レンズ | ②エイミング・システム（レーザー・パターン） | ③取り付け穴 |
| ④内部照明装置 | ⑤ヒューマン・マシン・インターフェイス | ⑥電源・シリアル I/O ケーブル |
| ⑦イーサネット・コネクタ | ⑧デバイス・ラベル | |

2. 垂直モデル

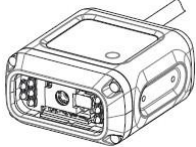
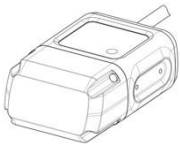
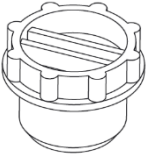
垂直モデル・タイプは、通常は狭い空間に垂直方向に取り付けて使用できる、異なる種類の取り付け方法です。このモデルでは緑色の LED エイマーを提供しており、これはデコーディング領域の中心位置を見つける際に役立ちます。




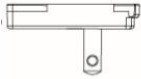
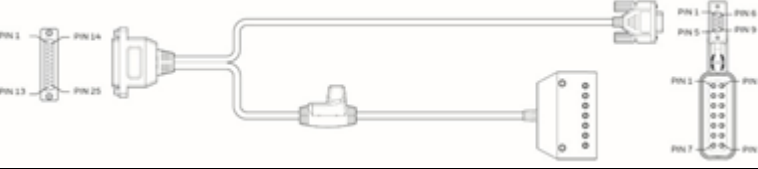
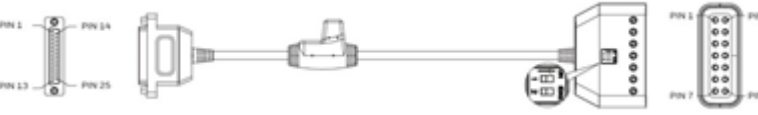
- | | | |
|---------------------|--------------|-------------------|
| ①内部ミラー | ②レンズ | ③内部照明装置 |
| ④デバイスのラベル | ⑤エイミング・システム | ⑥取り付け穴 (4) |
| ⑦ヒューマン・マシン・インターフェイス | ⑧イーサネット・コネクタ | ⑨電源・シリアル I/O ケーブル |

パッケージ内容

- HF800 固定式バーコード・リーダー
- イーサネット・ポットのカバー

モデル	名前	パッケージ内容	数量	外観	
				水平モデル	垂直モデル
HF800	固定式バーコード・リーダー	リーダー・ユニット	1		または 
		イーサネット・ポットのカバー (リーダー上に取り付け)	1		

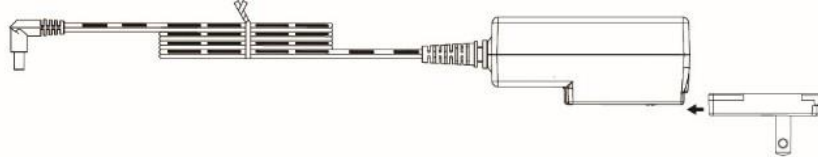
付属品

名前	部品番号	図面
アダプター	50129397-001	
プラグ	50122315-001	
I/O+RS232 ケーブル	50142347-001	
I/O+RS485/422 ケーブル	50144214-001	

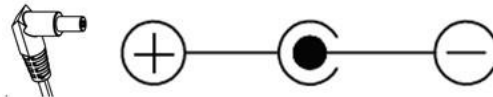
イーサネット・ケーブル	50143315-001	
取り付け金具キット	50145368-001	

アダプターおよびプラグ：

アダプターの入力電圧は AC100~240V、周波数は 50~60Hz、出力電圧は DC12.00+/-0.6V、最大電流は 1.25A です。アダプターはプラグとともに使用されます。両方とも、Honeywell から付属品として購入することをお勧めします。

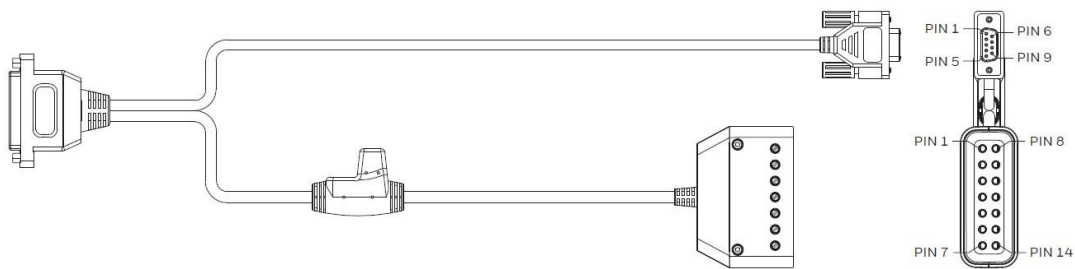


注：DC プラグの内側は負で、外側は正です。Honeywell 製のアダプターのみを使用することをお勧めします。



外部 I/O+RS232 ケーブルのターミナル・ピン配列：

より良い EMI 性能を得るには、シールドを接地することをお勧めします。



メス型 DB9 コネクターの説明：

ピン No.	説明
1	シールド
2	RS232_TX (出力)
3	RS232_RX (入力)
5	接地
7	CTS (入力)
8	RTS (出力)
6、7、13、14 予備	

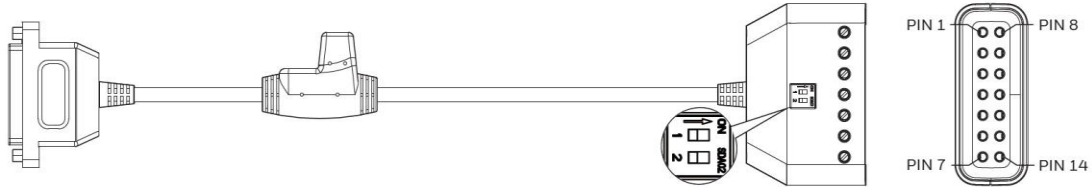
14 ピン・コネクターの説明：

ピン No.	説明	ピン No.	説明
1 Vin	電源	8 GND	電源接地
2 IN1B	外部入力 1B (極性に依存しない)	9 O1+	正の出力 1
3 IN1A	外部入力 1A (極性に依存しない)	10 O1-	負の出力 1
4 IN2B	外部入力 2B (極性に依存しない)	11 O2+	正の出力 2
5 IN2A	外部入力 2A (極性に依存しない)	12 O2-	負の出力 2
6、7、13、14 予備			

外部 I/O+RS485/422 ケーブルのターミナル・ピン配列：

485/422 ケーブルには 2 つのスイッチがあり、スライドしてオンにすると HF800 485/422 は 120ohm で終端し、スライドしてオフにすると終端抵抗器はなくなります。

注：より良い信号品質を得るには、データ・ライン（データ+とデータ-の間）上に 2 つの 120ohm の終端抵抗器があることを確認してください。1 つはホストの近く、もう 1 つは端部にあります。



14 ピン・コネクターの説明：

ピン No.	説明	ピン No.	説明
1 Vin	電源	8 GND	電源接地
2 IN1B	外部入力 1B（極性に依存しない）	9 O1+	正の出力 1
3 IN1A	外部入力 1A（極性に依存しない）	10 O1-	負の出力 1
4 IN2B	外部入力 2B（極性に依存しない）	11 O2+	正の出力 2
5 IN2A	外部入力 2A（極性に依存しない）	12 O2-	負の出力 2
RS485/422			
6 RS485_A	T/R+	13 RS485_Y	RX+
7 RS485_B	T/R-	14 RS485_Z	RX-

お客様は、HF800 に電源を供給するために、14P コネクターの DC ジャックを介してアダプターを、または Vin ピンを介して直流源を使用できます。アダプターを使用する場合、ブザーなどのその他の付属品、外部照明、または別の HF800 でも、14P コネクターの Vin ピンを介してアダプターから電流を引き込むことができます。合計消費電力が 15W を上回らないように注意してください。

イーサネット・ケーブル



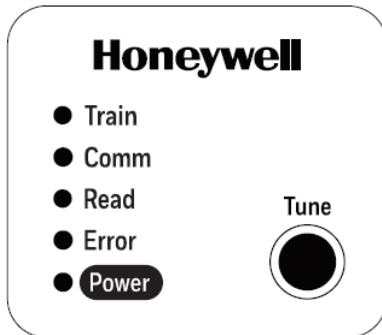
イーサネット・ケーブルのピン配列			
M12 ピン No.	RJ45 ピン No.	名前	機能
1	1	TX+	送信データ (+)
2	2	TX-	送信データ (-)
3	3	RX+	受信データ (+)
4	6	RX-	受信データ (-)

取り付け金具

HF800 を取り付けするには、リーダーを最も適した位置に配置するために、取り付け金具を使用します。この取り付け金具は、リーダーをさまざまな軸で回転させる際に役立ちます。



ヒューマン・マシン・インターフェイス



HF800 には 5 つのインジケータがあり、リーダー・ステータスと簡単に設定するための調整ボタンがあります。機能の詳細な説明を以下に示します。

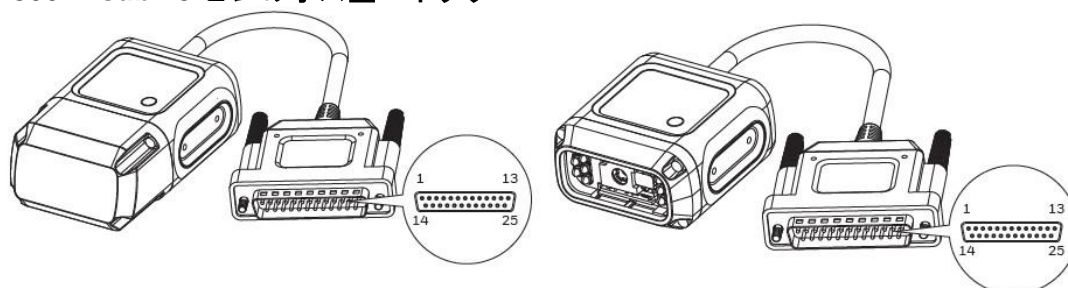
インジケータの説明	
Train (トレーニング)	<p>緑色／赤色の LED。</p> <p>1 Tune (調整) ボタンを 3~20 秒間長押しすると、LED は緑色と赤色で 100 ミリ秒間交互に点滅します。このときボタンを離すと、LED は消灯します。</p> <p>2 Tune (調整) ボタンを 20 秒を超えて長押しすると、LED は緑色と赤色で 500 ミリ秒間交互に点滅します。このときボタンを離すと、LED は消灯します。</p>
Comm (通信)	黄色の LED。この LED は、点滅してイーサネット・ラインからの有効なデータがあることを示します。
Read (読み取り)	緑色の LED。読み取りが成功したことを示します。
Error (エラー)	赤色の LED。エラーがある場合、赤色の LED が点灯します。
Power (電源)	白色の LED。デバイスに正しく電源が供給されていることを示します。

調整ボタンの説明	
Tune (調整)	<p>1 ボタンを 3~20 秒間長押しして離すと、リーダーは Auto-Train (自動トレーニング) モードになります。トレーニング・プロセスは、全体として数秒間続きます。</p>

	<p>トレーニングが成功すると、ブザーは読み取り成功音のシーケンスを3回鳴らします。</p> <p>トレーニングが失敗すると、ブザーは読み取りエラー音のシーケンスを1回鳴らします。</p> <p>2 ボタンを20秒以上長押しして離すと、リーダーはユーザーがデフォルト操作を確認するまで待ちます。10秒以内に再度ボタンを押すと、リーダーはすべての設定をデフォルトに戻し、ブザーはユーザーに通知するためにメニュー読み取りブザーを鳴らします。10秒経っても再度ボタンが押されない場合、リーダーは前の作業状態に戻ります。</p>
--	--

電気特性

HF800 D-sub 25 ピンのオス型コネクタ

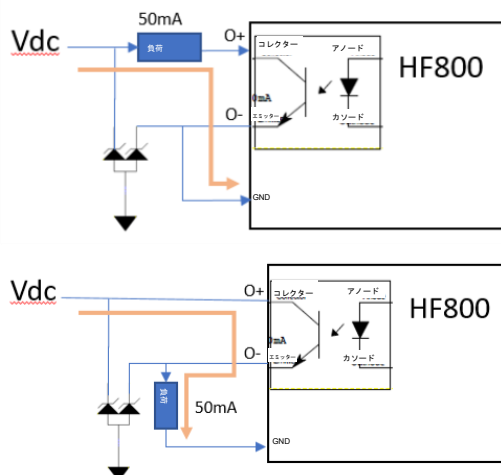


電源、COM、および I/O コネクタのピン配列		
ピン No.	名前	機能
9,13	Vin	電源入力 (DC10~30V)
7,25	GND	電源接地
1	シールド	シャーシ・シールド
2	RS232_TX	TXD (出力)
3	RS232_RX	RXD (入力)
4	RS232_RTS	RTS (出力)
5	RS232_CTS	CTS (入力)
6	IN2A	外部入力チャンネル 2 A
10	IN2B	外部入力チャンネル 2 B
18	IN1A	外部入力チャンネル 1 A
19	IN1B	外部入力チャンネル 1 B
8	O1+	出力 1 +
22	O1-	出力 1 -
11	O2+	出力 2 +
12	O2-	出力 2 -
14	RS485_Z	RX- (RS422 RX-のみ) (入力)
15	RS485_Y	RX+ (RS422 RX+のみ) (入力)
16	RS485_A	T/R+ (RS485 データ+および RS422 TX+)
17	RS485_B	T/R- (RS485 データ-および RS422 TX-)
20,21,23,24	予備	予備

出力

2つのデジタル出力（出力1、出力2）を使用できます。これらは、極性に依存する2つのフォトカプラーによって保護されます。フォトカプラーの最大 V_{ce} は DC30V で、最大直流は 50mA です。出力ピンと並列にツェナー・ダイオードが2つあり、ダイオードの破壊電圧が 5.6V であるため、出力ピンに直接接続された外部電源が 6V より高い場合、電圧は 5.6V にクランプされます。お客様は、これらの2つの出力を使用して、ブザーと外部照明 LED を制御できます。

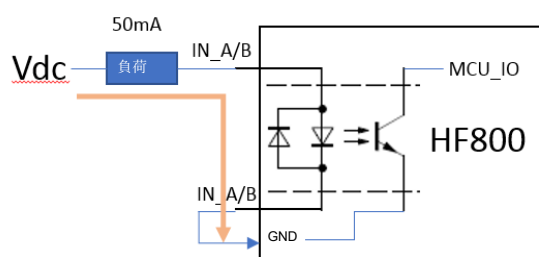
通常のコース・ケース：



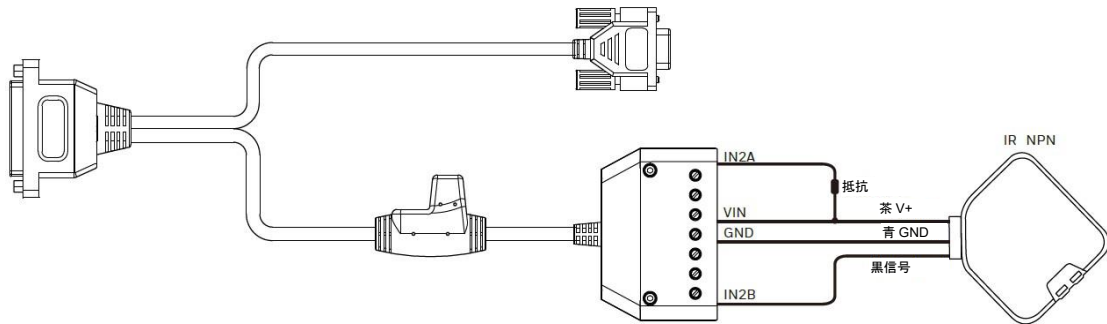
入力

2つのデジタル入力（入力1、入力2）を使用できます。これらは、極性に依存しない2つのフォトカプラーによって保護されます。通常のフォトカプラーの順方向電圧は 1.35V で、最大電流は 50mA です。お客様は V_{dc} と負荷低抗を調整して、電流が 50mA 未満で、 V_{dc} が DC30V を超えないようにする必要があります。最大入力周波数は 100KHz です。お客様は、これらの2つの入力に外部 IR トリガーと PLC を接続できます。

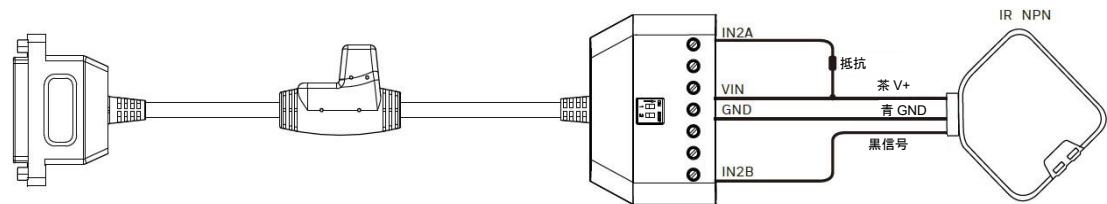
通常のコース・ケース：



以下に示す通常の入力2レイアウトへのNPNタイプのIR接続では、IN2AをIN1Aに、IN2BをIN1Bに置き換える必要があります（入力1も同様）。電流を制限するため、 $V+$ とIN2Aの間に直列抵抗（1~1.5Kohm）を配置することを推奨します。

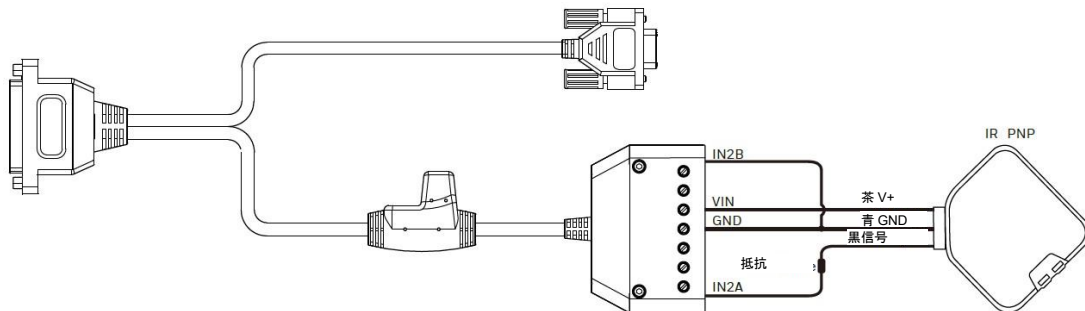


外部 I/O+RS232 ケーブルに接続された NPN タイプの IR

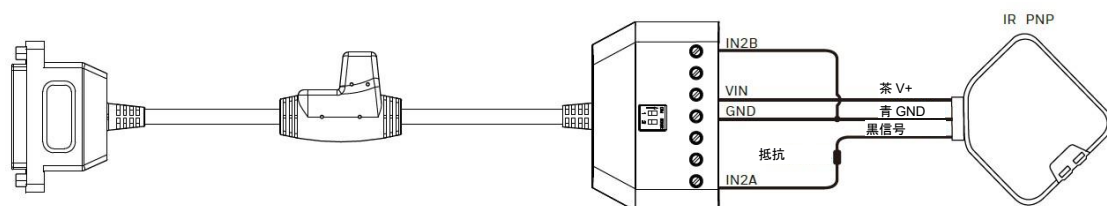


外部 I/O+RS485/422 ケーブルに接続された NPN タイプの IR

以下に示す通常の入力 2 レイアウトへの PNP タイプの IR 接続では、IN2A を IN1A に、IN2B を IN1B に置き換える必要があります（入力 1 も同様）。電流を制限するため、信号と IN2A の間に直列抵抗（1~1.5Kohm）を配置することを推奨します。



外部 I/O+RS232 ケーブルに接続された PNP タイプの IR



外部 I/O+RS485/422 ケーブルに接続された PNP タイプの IR

RS232

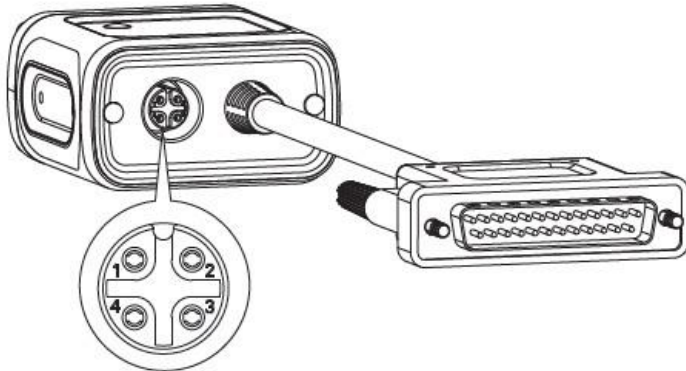
HF800 は RS232 通信をサポートしており（ハードウェアのデータ・フロー制御を設定可能）、デフォルトのボーレートは 115200 で、4800、9600、19200、38400 に設定できます。

RS485 および RS422

HF800 は RS485 通信と RS422 通信の両方をサポートしており、ボーレートは 115200 に固定されています。お客様は 1 回につきいずれか（485 または 422）を使用できます。RS485 を使用する場合は、485 データ+を RS485_A に接続し、485 データ-を RS485_B に接続します。RS485_Y と RS485_Z は、RS422 RX でのみ使用できません。

イーサネット M12 コネクタ

HF800 は 1 つの 10/100M 対応イーサネットをサポートしており、DHCP はデフォルトで有効です。無効の場合、IP は 192.168.1.110 で、ネット・マスクは 255.255.255.0 です。防水の M12 A コード・コネクタ。付属品リストで RJ45 イーサネット変換ケーブルに対応している M12 を Honeywell から購入してください。



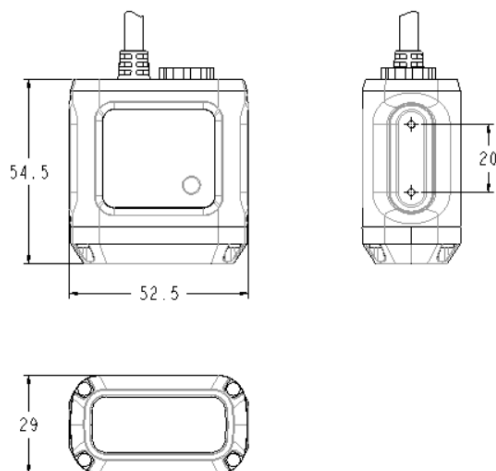
HF800 イーサネット・コネクタのピン配列		
ピン No.	名前	機能
1	TX+	送信データ (+)
2	TX-	送信データ (-)
3	RX+	受信データ (+)
4	RX-	受信データ (-)

電源要件

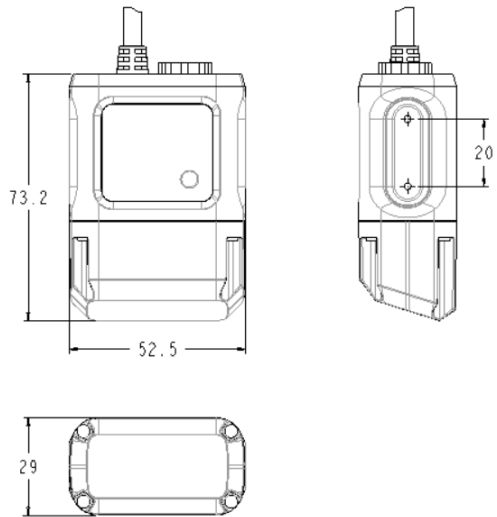
HF800 リーダーは DC10~30V の幅広い入力電力をサポートしており、最大消費電力は 5W です（内部照明）。

機械寸法

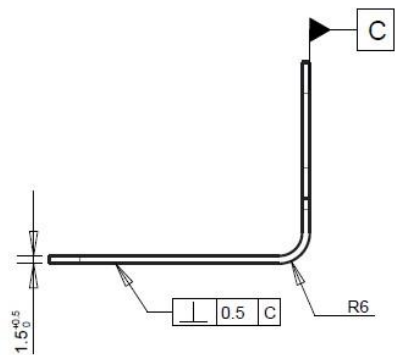
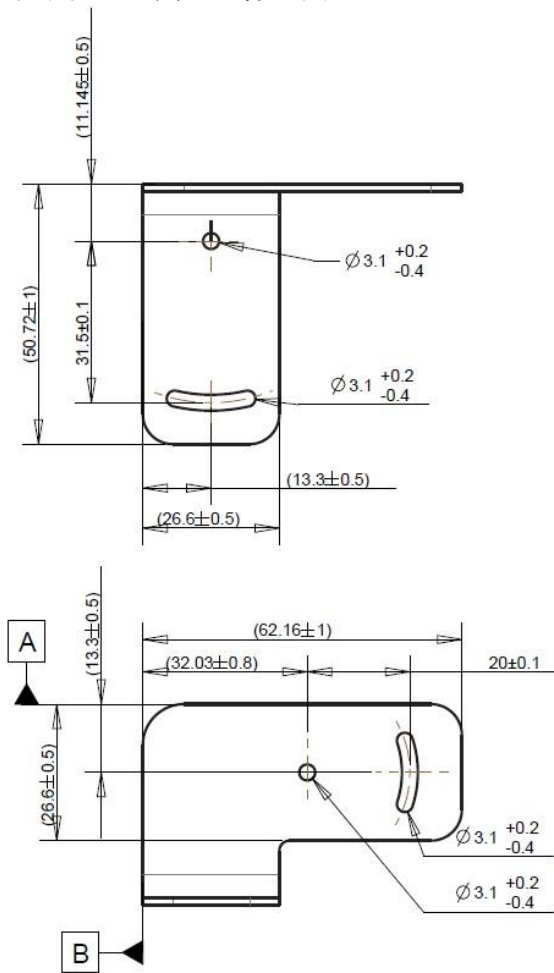
1. 水平モデル : 54.5*52.5*29mm (L*W*H、許容範囲±1mm)



2. 垂直モデル : 73.2*52.5*29mm (L*W*H、許容範囲±1mm)



3. 取り付け金具の全体寸法

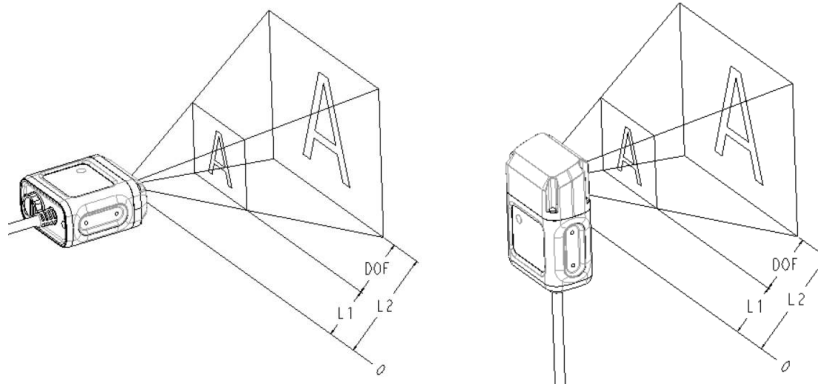


光学特性

DOF

以下の表のデータを参照して使用時の設置距離を調整してください。

DOF = L1~L2



DOF (Depth of Field、被写界深度)		
シンボル体系	H	V
HD	水平 (L1~L2)	垂直 (L1~L2)
4mil Code 38	50~80mm	25~55mm
5mil Code 39	30~115mm	25~90mm
13mil UPC	40~175mm	25~150mm
10mil datamatrix	22~128mm	25~105mm
20mil datamatrix	23~195mm	25~170mm
SR	水平	垂直
5mil Code 39	64~140mm	39~115mm
13mil UPC	55~405mm	30~380mm
10mil datamatrix	62~190mm	37~165mm
20mil datamatrix	47~375mm	25~350mm
ER	水平	垂直
5mil Code 39	147~218mm	122~193mm
13mil UPC	71~480mm	46~455mm
10mil datamatrix	135~250mm	110~225mm
20mil datamatrix	102~400mm	77~375mm

FOV の計算

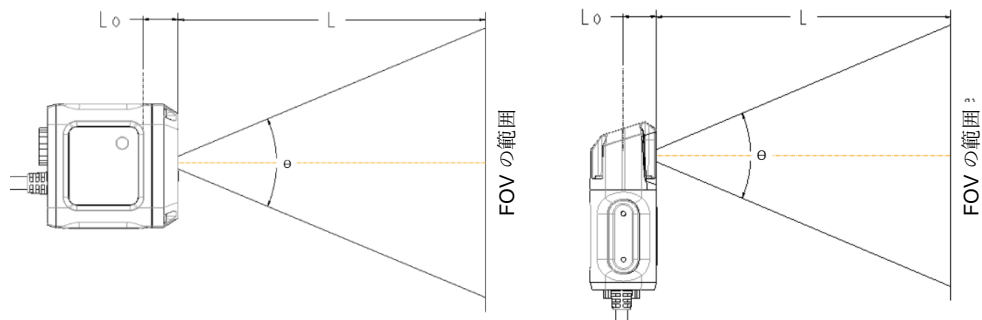
以下の表のデータを公式に使用して、使用時の FOV (視野角) を計算してください。

$$FOV_{range} = 2[(L_0 + L) * \tan(\theta/2)]$$

例 : HF800HD-1-1H @ 50mm

$$FOV_V = 2[(5 + 50) * \tan(32.2/2)] = 31.7mm$$

$$FOV_H = 2[(5 + 50) * \tan(41.4/2)] = 41.6mm$$

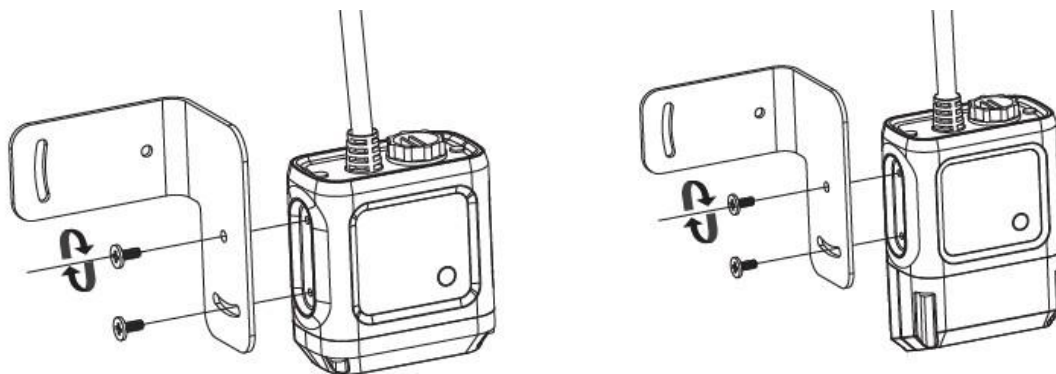


モデル	L_0 (内部距離/mm)	θ_H (水平角)	θ_V (垂直角)
HF800HD-1-1H	5	41.4	32.2
HF800SR-1-1H	5	42.4	33
HF800ER-1-1H	5	31.6	24.4
HF800HD-1-1V	25	41.4	32.2
HF800SR-1-1V	25	42.4	33
HF800ER-1-1V	25	31.6	24.4

はじめに

取り付けおよび配置

HF800 取り付け金具を使用して、以下の図に示すようにリーダーをさまざまな軸で回転させることができます。



- 取り付けネジのサイズ：M2.5

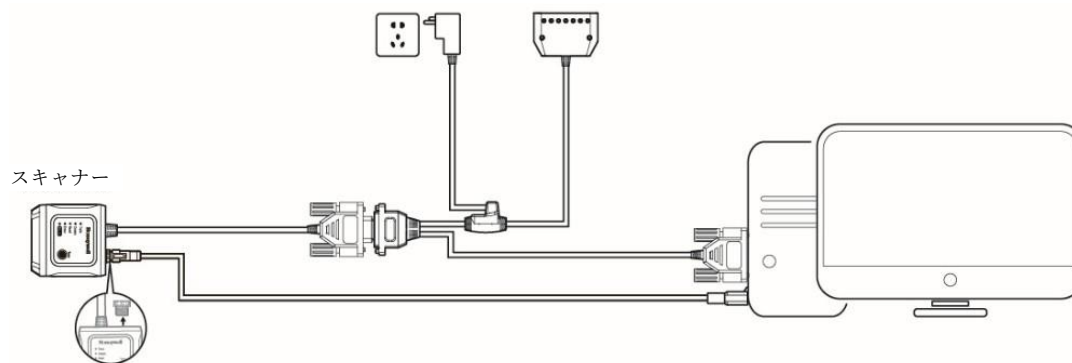
接続

イーサネットに接続する

システムをイーサネットのポイント・ツー・ポイント構成で接続するには、以下に示すハードウェアが必要です。

このレイアウトでは、データはイーサネット・ケーブルを使用し、外部 232/485 ケーブルからの電源供給を受けて、HF800 のオンボード・イーサネット・インターフェイスからホストに送信されます。

注：お客様のデバイスから本機に電源が供給されていない場合は、電源アダプターが必要です。

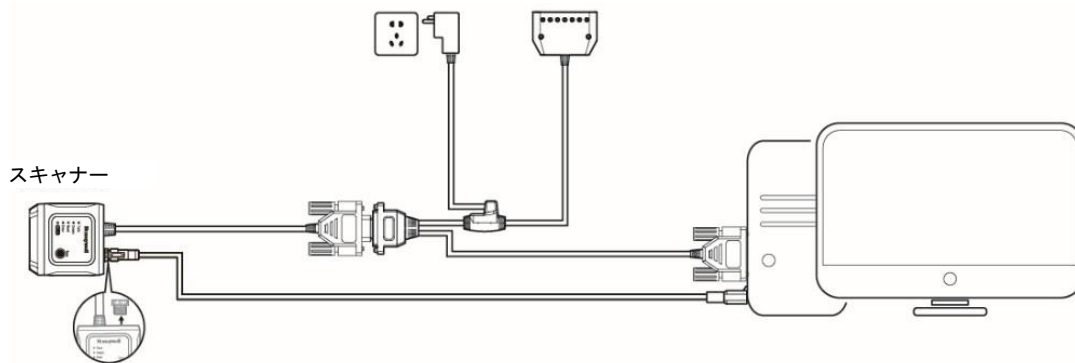


RS232 に接続する

システムをシリアル・ポイント・ツー・ポイント構成で接続するには、以下に示すハードウェアが必要です。

このレイアウトでは、データは HF800 RS232 インターフェイスからホストに送信されます。

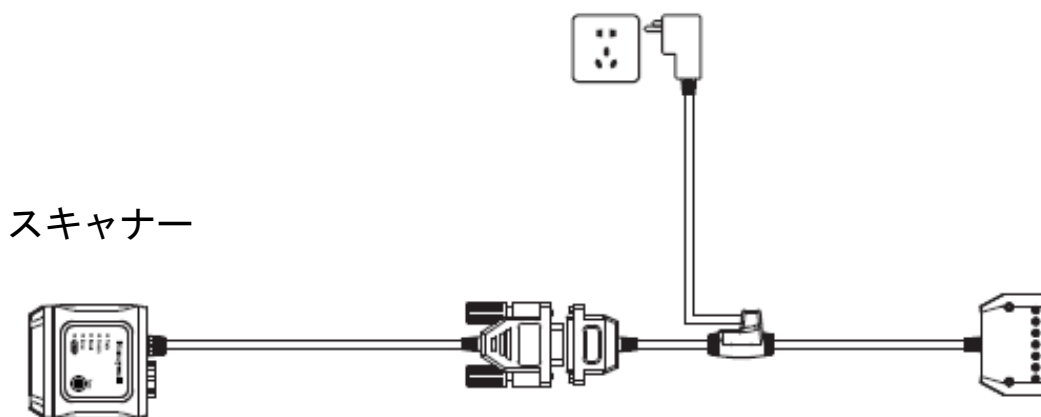
注：I/O コネクタが RS232 インターフェイスと併用されている場合で、お客様のデバイスから本機に電源が供給されていない場合は、電源アダプターが必要です。



RS485 に接続する

システムをシリアル・ポイント・ツー・ポイント構成で接続するには、以下に示すハードウェアが必要です。このレイアウトでは、データは HF800 RS485/422 インターフェイスからホストに送信されます。

注：I/O コネクタが RS485/422 インターフェイスと併用されている場合で、お客様のデバイスから本機に電源が供給されていない場合は、**電源アダプター**が必要です。



DataMax[®] の設定プログラムをインストールする

DataMax の配布内容

DataMax プログラムの配布内容は以下のとおりです。



インストール・パッケージ

ハードウェア要件

通常の DataMax クライアント PC のハードウェア要件は以下のとおりです。

- a. 2.00GHz 以上のマイクロプロセッサ
- b. 1GB の RAM
- c. 2GB のハードディスク（64 ビット・マシンの場合）または 1GB のハードディスク（32 ビット・マシンの場合）
- d. 19 インチ以上のモニター1 台（1280*1024 解像度用に最適化）

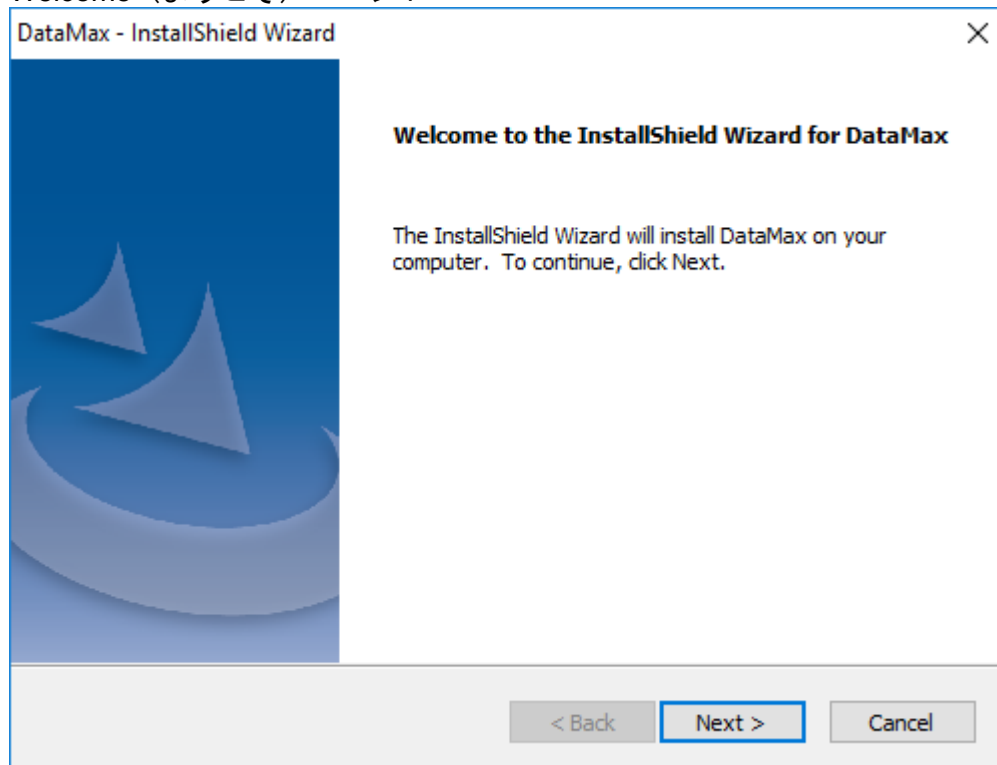
ソフトウェア要件

Windows OS（32 または 64 ビット）：Windows XP/7/8/10

インストール方法

1. PC に zip ファイルをダウンロードします。フォルダー構造を維持したままファイルを解凍し、セットアップ・ファイルを実行してインストールのポップアップを表示します。インストール用のリンクをクリックしてインストール・プログラムを実行し、インストール・プロセスに従います。
2. インストールが完了すると、「Start（スタート）」に DataMax 項目が作成され、デスクトップにもショートカットが作成されます。
3. デスクトップのショートカットをダブルクリックして実行します。Welcome（ようこそ）ページ：

Welcome（ようこそ）ページ：



Privacy statement (個人情報保護方針) :

DataMax - InstallShield Wizard

Privacy Statement

Please read the following privacy statement carefully.

Honeywell

END USER LICENSE AGREEMENT

This License Agreement ("Agreement") is a legal agreement between Honeywell International Inc. ("Licensor"); you, as the individual using the software which accompanies this Agreement ("Software"); and, if you are using the Software at the direction of a legal entity in the course of your employment by that entity, such entity (you and such entity being referred to herein as "Licensee", individually or

I accept the terms of the license agreement

I do not accept the terms of the license agreement

Print

InstallShield

< Back Next > Cancel

Privacy statement (個人情報保護方針) :

DataMax - InstallShield Wizard

Privacy Statement

Please read the following privacy statement carefully.

Honeywell

PRIVACY STATEMENT

Honeywell International Inc., including its controlled subsidiaries and affiliates, (collectively "Honeywell") is committed to protecting your privacy. This statement details the steps we take to protect your personal information when you visit our websites or use an online application that contains a link to this statement (collectively, the "sites"). This statement also covers information we receive when

I accept the terms in the privacy statement

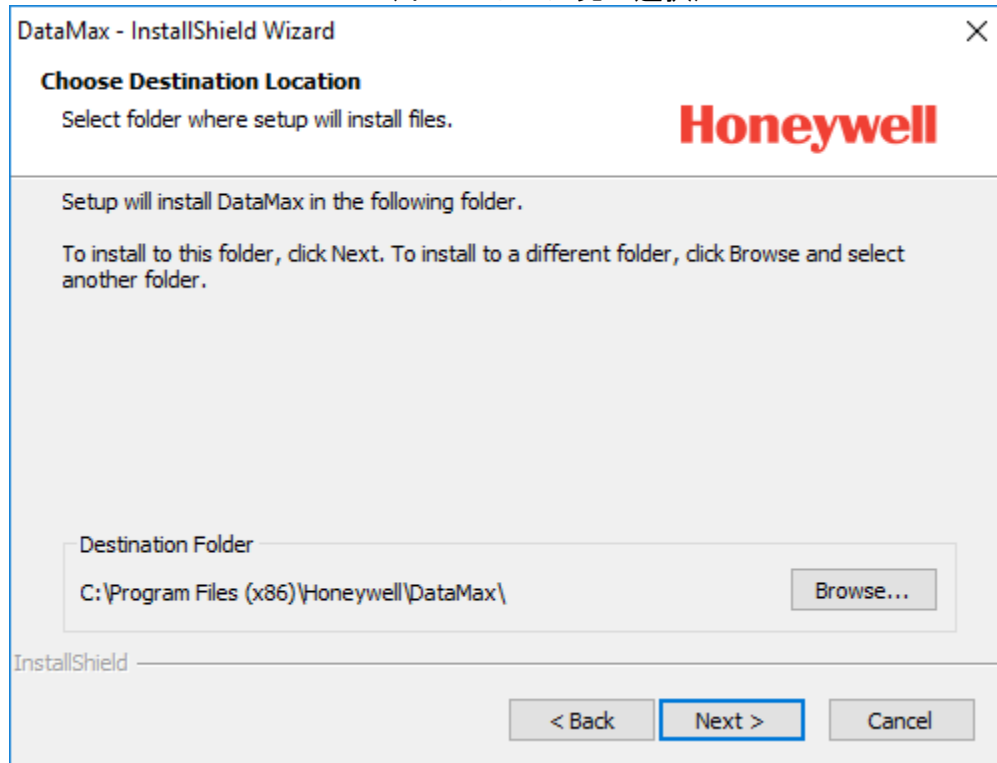
I do not accept the terms in the privacy statement

Print

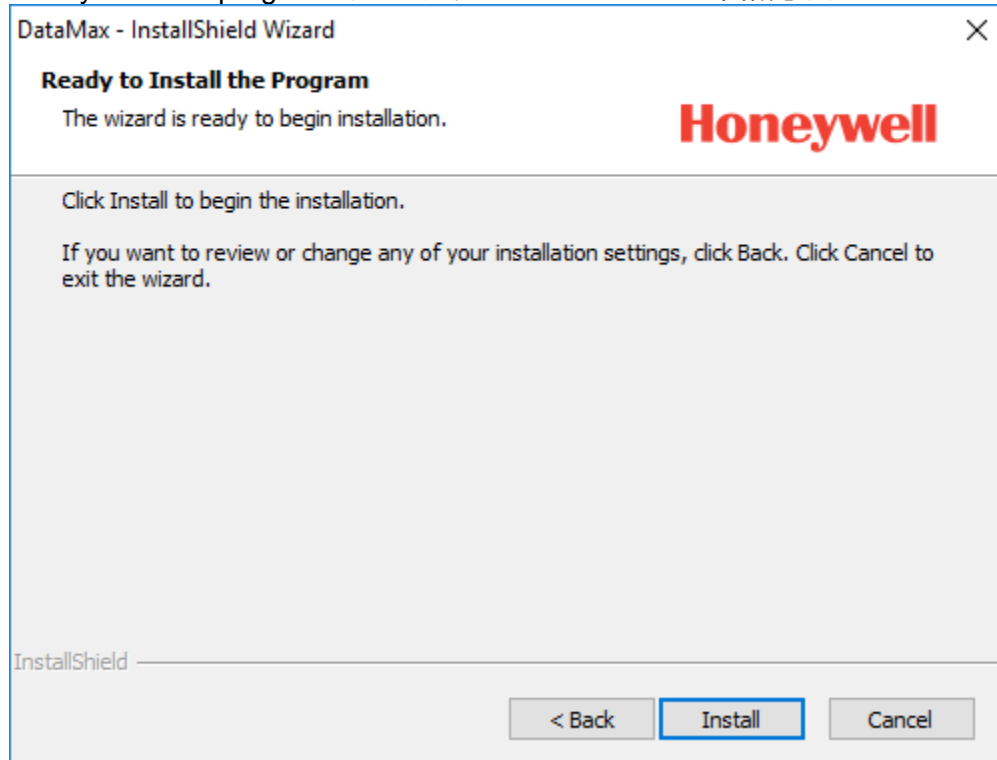
InstallShield

< Back Next > Cancel

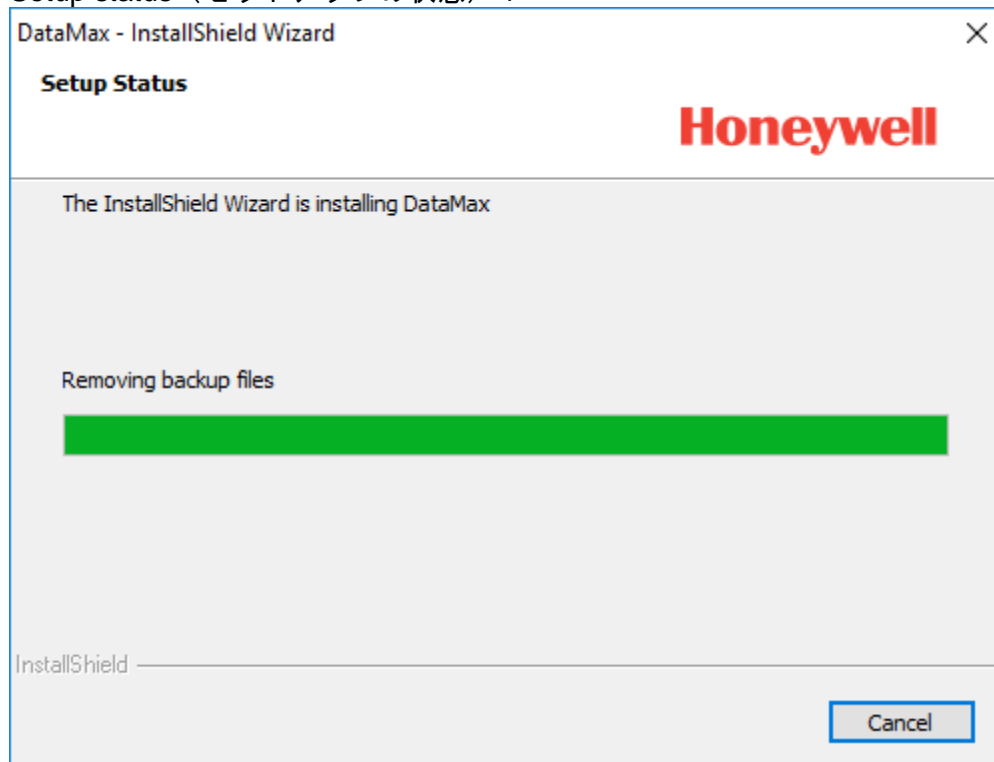
Choose destination location (インストール先の選択) :



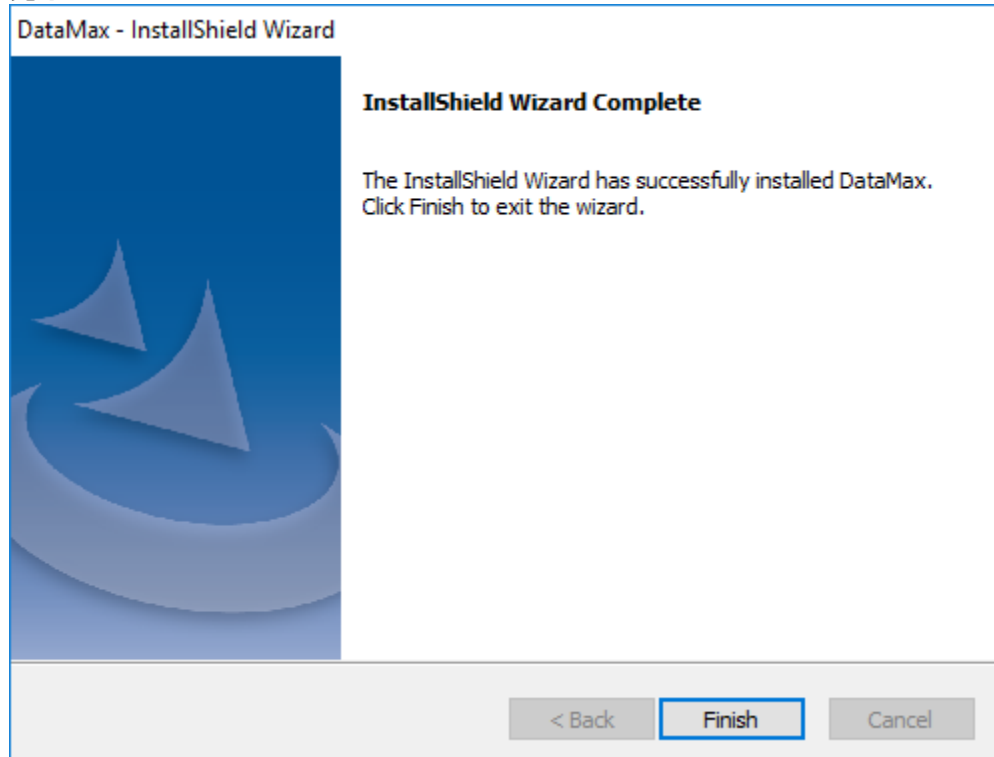
Ready to install program (プログラムのインストール準備完了)



Setup status (セッアップの状態) :



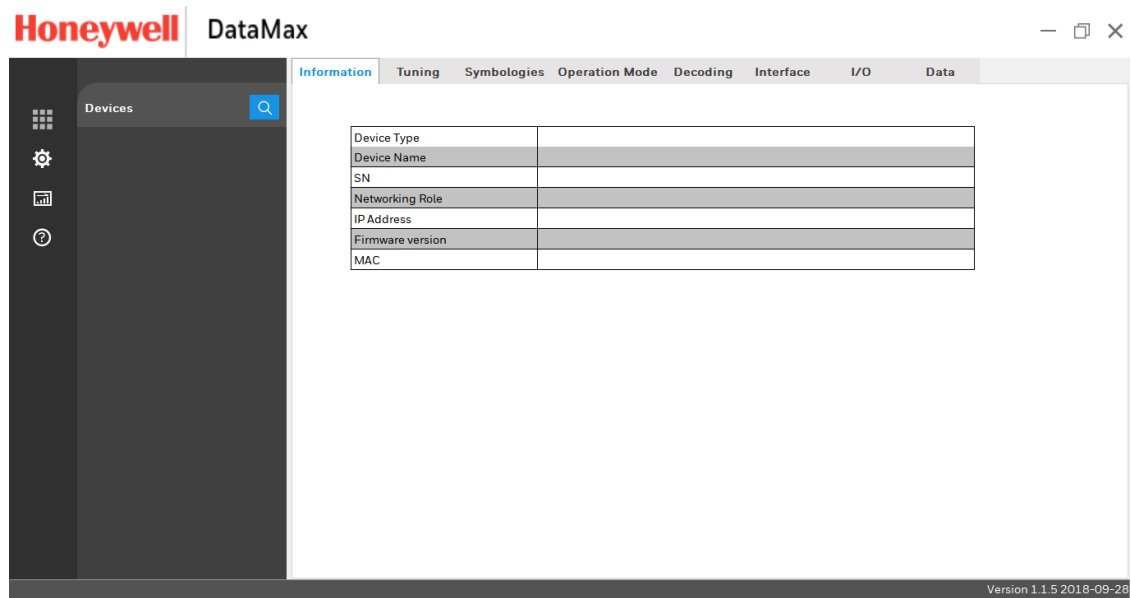
完了 :



デスクトップのショートカット :



デスクトップのショートカットをダブルクリックして実行します。

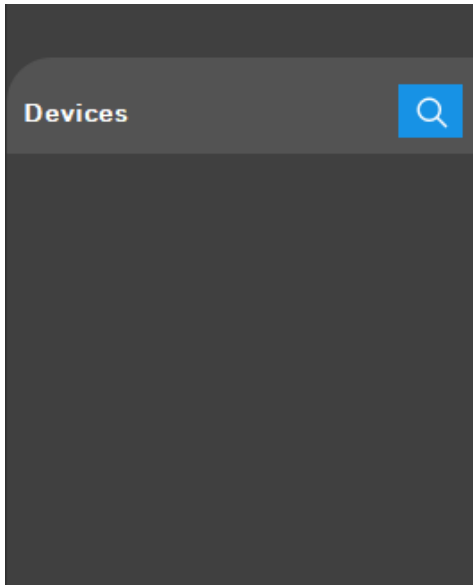


注 : ツールの権限は、PC の許可に依存します。

DataMax のユーザー・インターフェイスの概要

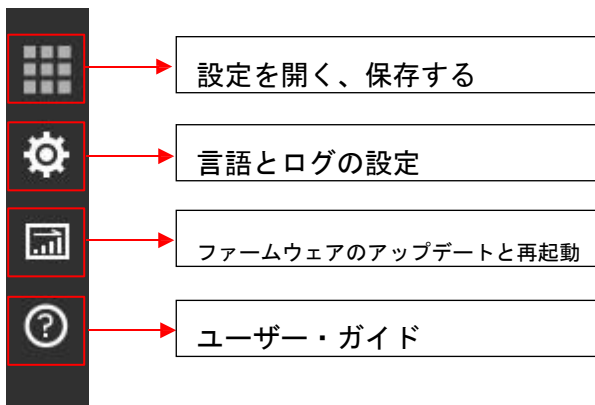
デバイス・リスト領域

この領域には、デバイス・リストが表示されます。



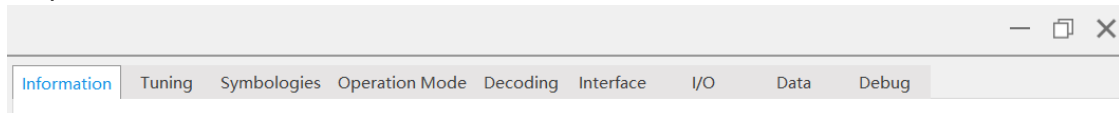
コントロールおよびヘルプ・パネル

この領域には「Open Configuration（設定を開く）」、「Save Configuration（設定を保存）」、「Language（言語）」、「Log Level（ログ・レベル）」、「Update Firmware（ファームウェアをアップデート）」、「Restart（再起動）」、「User Guide（ユーザー・ガイド）」が表示されます。



メイン・メニューおよびツールバー

メイン・メニュー：



ステータス・バー：



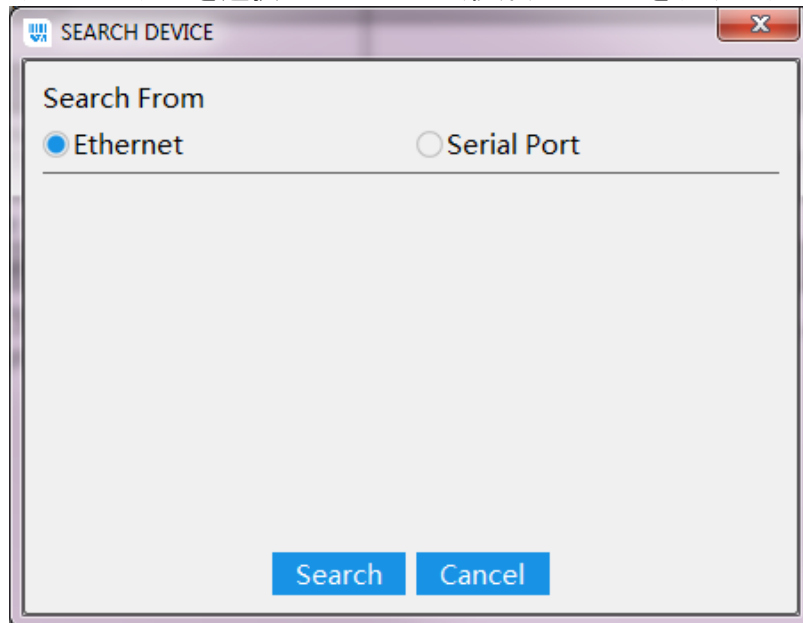
シリアル番号およびデバイス名

DataMax のバージョン

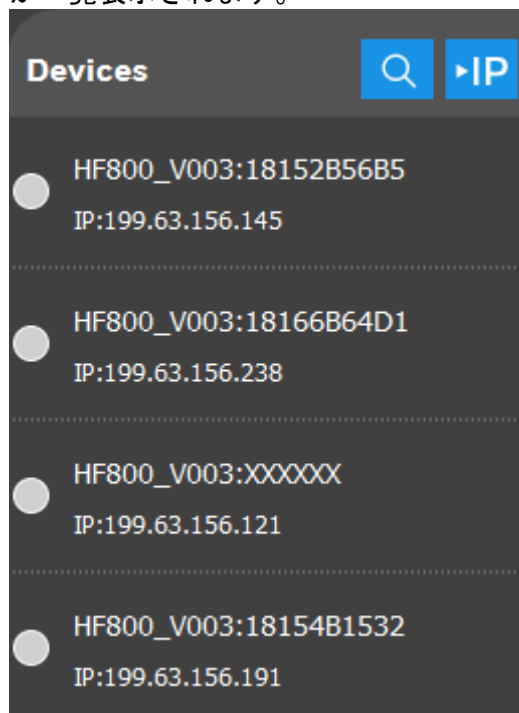
デバイスを検出する

イーサネット上で検出する

DataMax の設定プログラムを開いて  ボタンをクリックし、Ethernet（イーサネット）チェック・ボックスを選択して Search（検索）ボタンをクリックします。





プログラムによって LAN 上の接続デバイスが自動的にすべて検索され、その概要が一覧表示されます。

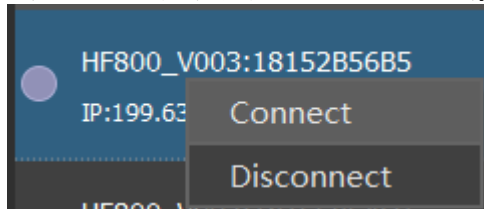


各項目は、3つの部分から成ることを覚えておいてください。



- 1 デバイス名とシリアル番号。
- 2 デバイスの現在の IP アドレス。
- 3 接続ステータス。灰色のドット  は、本機にまだ DataMax の設定プログラムが接続していないことを示し、緑色のドット  は、本機がすでに DataMax の設定プログラムに接続していることを示します。

指定されたデバイスに接続している場合は、その項目のボックスをダブルクリック（または右クリックして Connect（接続）オプションを選択）します。

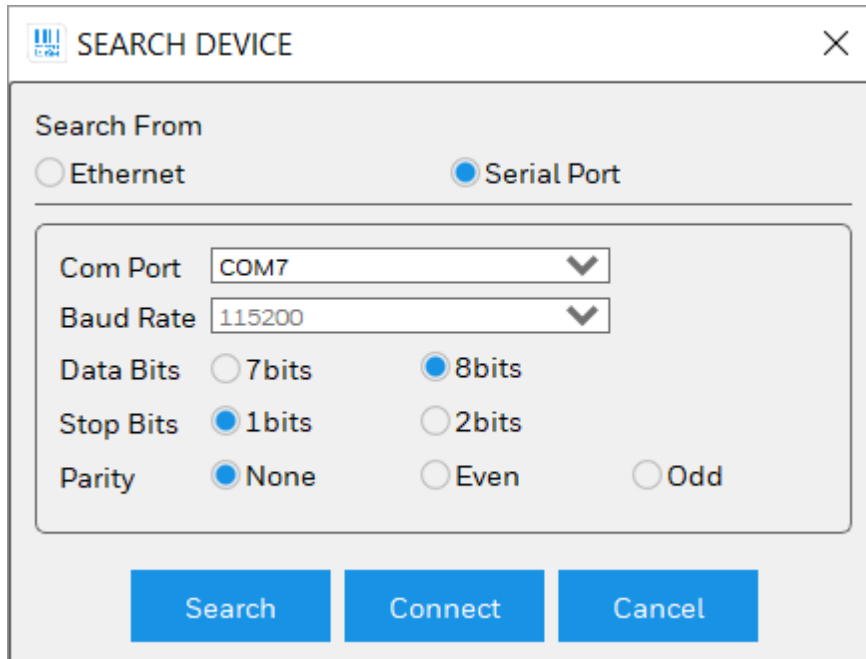


デバイスに正常に接続すると、DataMax の設定プログラムの右側にデバイス情報が表示されます。

Device Type（デバイス・タイプ）	Honeywell 6SX_HF800_REV1
Device Name（デバイス名）	HF800_V003
SN	18166B64D1
Is Master（マスターであるか）	Yes（はい）
IP Address（IP アドレス）	199.63.156.238
MAC	00-10-20-f8-ec-c2
Firmware version（ファームウェアのバージョン）	0.2.5

シリアル・ポートで検出する

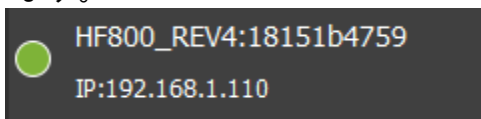
DataMax の設定プログラムを開いて  ボタンをクリックし、Serial Port（シリアル・ポート）チェック・ボックスを選択して Search（検索）ボタンをクリックします。



プログラムによってシリアル・ポートの接続デバイスが自動的にすべて検索されます。接続デバイスのシリアル・ポートがすべて Com Port（COM ポート）に一覧表示されます。Data Bits（データ・ビット）／Stop Bits（ストップ・ビット）／Parity（パリティ）のパラメータは、自動的に選択されません。検索を行う前に、ユーザーが手動で設定してください。

Connect

ボタンをクリックすると、DataMax によってその概要が一覧表示されます。



デバイスが正常に接続されると、DataMax の設定プログラムの右側にデバイス情報が表示されます。

デバイス・タイプ	Honeywell HF800
Device Name (デバイス名)	HF800_REV4
SN	18151B4759
Mode (モード)	Master (マスター)
IP Address (IP アドレス)	192.168.1.110
Firmware version (ファームウェアのバージョン)	EC000012BAA

デバイス情報の説明

Information

DataMax のタブ **Information** を選択すると、デバイス情報の説明が以下のように表示されます。

デバイス・タイプ	Honeywell HF800
Device Name (デバイス名)	HF800_REV4
SN	18166B64D1
Mode (モード)	Master (マスター)
IP Address (IP アドレス)	199.63.156.238
MAC	00-10-20-f8-ec-c2
Firmware version (ファームウェアのバージョン)	1.0.0
Kernel version (カーネルのバージョン)	Linux version 4.1.15+g30278ab SMP PREEMPT Tue Jul 3 15:51:01 CST 2018
App compile time (アプリのコンパイル時間)	Aug 14 2018 05:37:56

イメージング設定および統計

適切な状態で動作するようリーダーを設定する際、リーダーで撮影した画像を観察してリーダーを調整すると、露出パラメーターが適切な、より良い画像を得ることができるのでお勧めです。

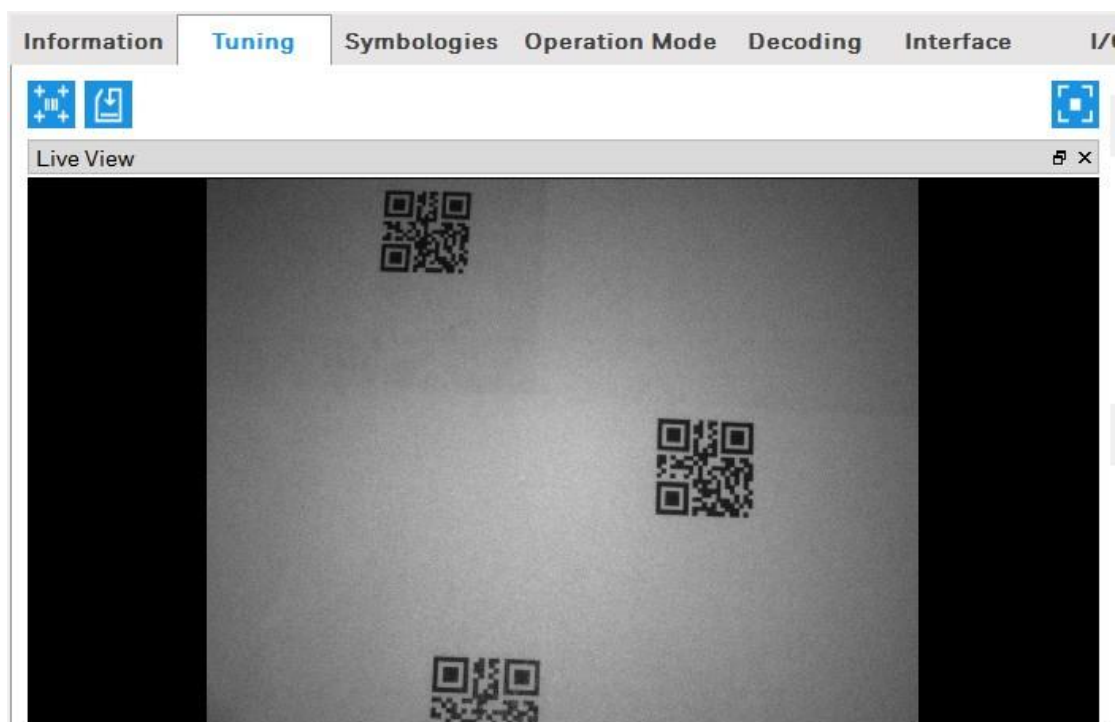
これらは、DataMax の設定プログラムで実行できます。DataMax の設定プログラムを開き、まずデバイスに接続します。次に、「Tuning (調整)」タブ・ページに移動します。


このタブ・ページで、ユーザーはデコード結果やログ結果を監視できます。


またユーザーは、「Auto Train (自動トレーニング)」機能を使用して、リーダーのパラメーターを自動的に調整することもできます。

ライブ・ビュー

デバイス接続時、デフォルトで Live View（ライブ・ビュー）ウィンドウに画像は表示されず、ウィンドウは暗く表示されます。

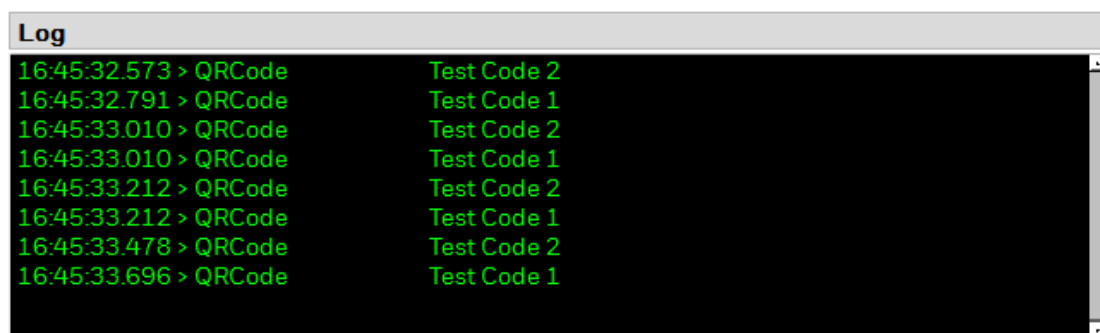


 ボタンをクリックして Live View（ライブ・ビュー）機能をオンにします。機能している場合、リーダーによって撮影された画像がウィンドウに表示されます。

その後、ボタンは  に変わります。再度ボタンを押すと、Live View（ライブ・ビュー）機能はオフになります。

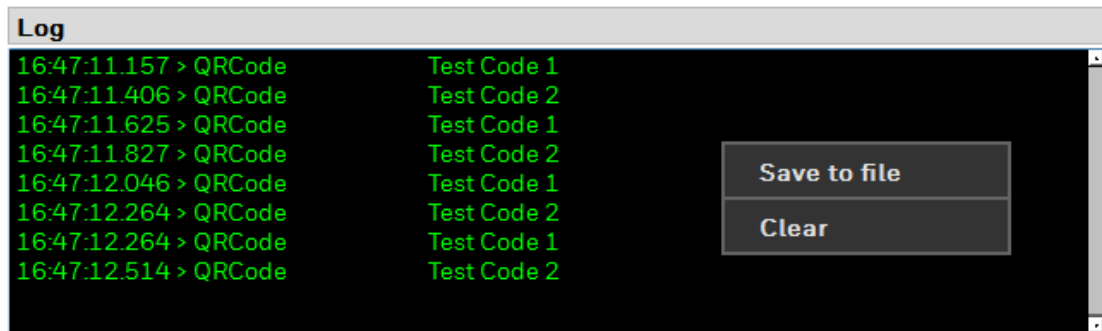
ログ・ビュー

このビューは、Live View（ライブ・ビュー）ウィンドウの下にあります。デコード結果情報は、すべてこのビューに表示されます。



このウィンドウで、バーコード受信タイムスタンプ、バーコードのタイプ、および取得可能なバーコードのコンテンツを取得できます。

Log（ログ）ビューを右クリックすると、ポップアップ・メニューが表示されます。

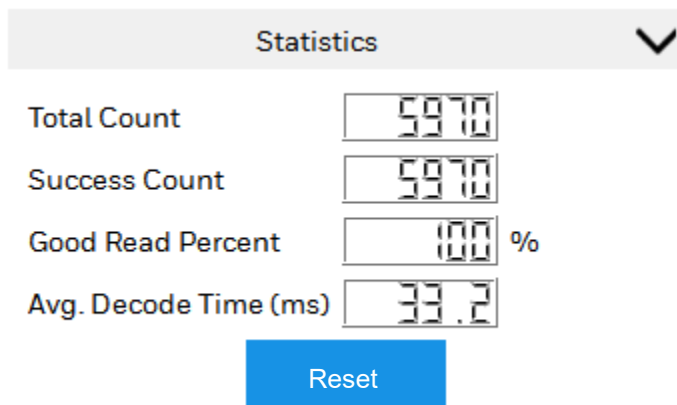


結果を指定ファイルに保存するには、「Save to file（ファイルに保存）」を選択します。

Log（ログ）ビュー・ウィンドウ内の情報をすべて消去するには、「Clear（クリア）」を選択します。

統計

「Statistics（統計）」パネルには、現在のデコード・カウンターがすべて表示されます。これを通じて、ユーザーはデコード率や平均デコード時間を監視できます。



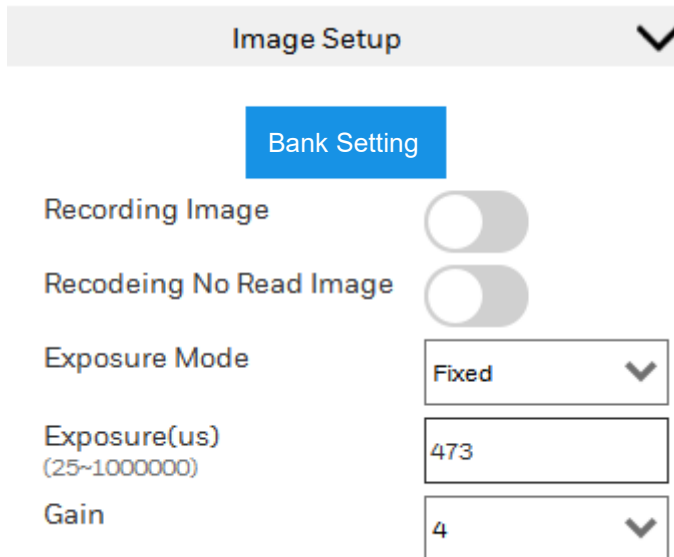
「Reset（リセット）」ボタンをクリックすると、すべてのカウンターがゼロにリセットされます。

イメージング設定

このパネルでは、リーダーの Exposure Mode（露出モード）を Auto（自動）または Fixed（固定）に設定できます。

自動モードの場合、リーダーはセンサーから取得した画像ごとに露出時間とゲインを自動で調整します。

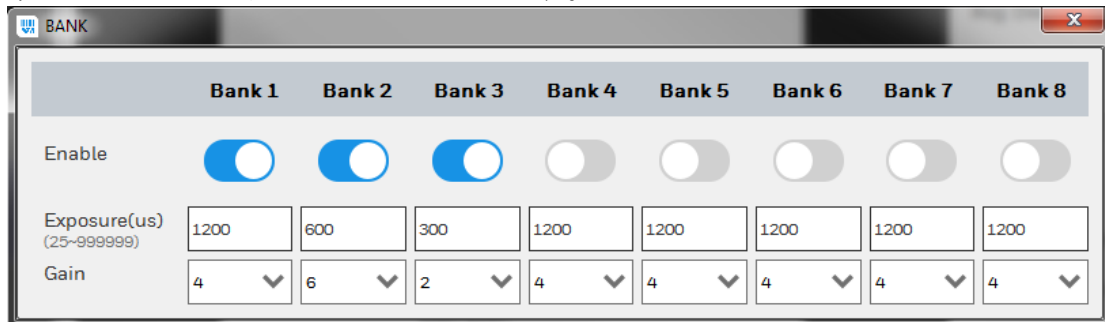
固定モードに変更した場合、リーダーの露出時間とゲインは編集ボックスに入力した値になります。



またこのパネルでは、読み取り時に反映されるようにバンク設定を設定することができます。各バンクについて、ユーザーは特定の露出時間とゲインを設定でき、有効にするか無効にするかを選択できます。HF800 では最大 8 つのバンクをサポートしています。

有効なバンクが複数ある場合、リーダーは 1 つのバーコードを読み取るかタイムアウトが発生するまで、読み取り時にさまざまなバンク設定を 1 つずつ切り替えます。

バンクを設定するには、**Bank Setting** ボタンをクリックします。バンク設定を行うためのダイアログがポップアップします。



特定のバンクがそれぞれ有効化されると、関連パラメーターは直ちに有効になります。

注：バンク設定を有効にするには、まず **Exposure Mode (露出モード)** を **Fixed (固定)** に設定する必要があります。

エイマーと照明

このパネルで、リーダーの照明とエイマーは、ユーザーの求めに応じて個別にオン/オフすることができます。

Aimer&Light ▼

Internal illumination

Laser/Led aimer

自動トレーニング

HF800 は、Auto Train（自動トレーニング）機能をサポートすることができます。実行すると、イメージング・パラメーターを調整し、リーダーの視野にあるバーコードを自動的に識別する際に役立ちます。この機能は配布時間の削減にも役立ちます。

Auto-Train ▼

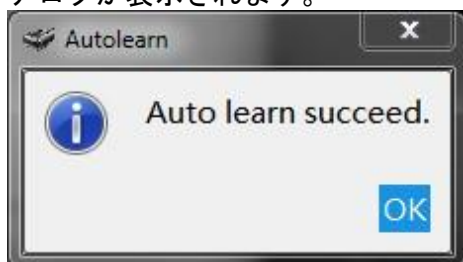
Default
 Customize

Exposure (us) ~

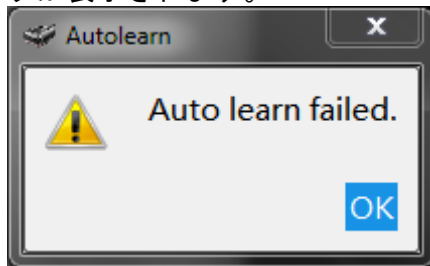
Maximum Gain

自動トレーニングの調整手順：

1. DataMax の設定プログラムを開き、デバイスに接続します。
2. 「Tuning（調整）」タブ・ページに移動します。
3. 「Auto Train（自動トレーニング）」パネルでは、リーダーに自動調整プロセスの実行方法を通知するために、「Default（デフォルト）」または「Customize（カスタマイズ）」のオプションを選択できます。
「Default（デフォルト）」を選択した場合、イメージング・パラメーターはリーダーによって調整されます。
「Customize（カスタマイズ）」を選択した場合は、露出時間の最小値および最大値を指定できます。また、最大ゲインは 1、2、3、4、6、8 のいずれかの値に制限される場合があります。
4. をクリックして自動学習プロセスを開始します。
注：自動学習プロセス全体を監視するには、Live View（ライブ・ビュー）機能を有効にすることをお勧めします。
数秒間待つと、リーダーからフィードバックが与えられます。
成功した場合は、リーダーではブザー音が 3 回鳴り、またユーザーに通知するダイアログが表示されます。




失敗した場合は、リーダーではエラー音が鳴り、またユーザーに通知するダイアログが表示されます。



画像切り取り

バーコードの現在位置が、検索前にわかっている場合があります。検索領域を画像全体から特定の小さな領域に変更することで、デコーダーの検索時間とデコード時間を短縮できます。

操作手順：


- 1 DataMax の設定プログラムを開き、デバイスに接続します。
- 2 「Tuning (調整)」タブ・ページに移動し、まず Live View (ライブ・ビュー) 機能を有効にします。
- 3 左上隅にある  をクリックします。
- 4 マウス・カーソルを Live View (ライブ・ビュー) ウィンドウの上に移動し、左ボタンを長押ししてサブ・ウィンドウの左上座標を設定します。その後、ボタンを押したままマウスを移動して赤い長方形を描きます。
- 5 求めるサブ・ウィンドウを描いたら、左ボタンを離します。描画中、ウィンドウの座標は同時に変更し続けます。

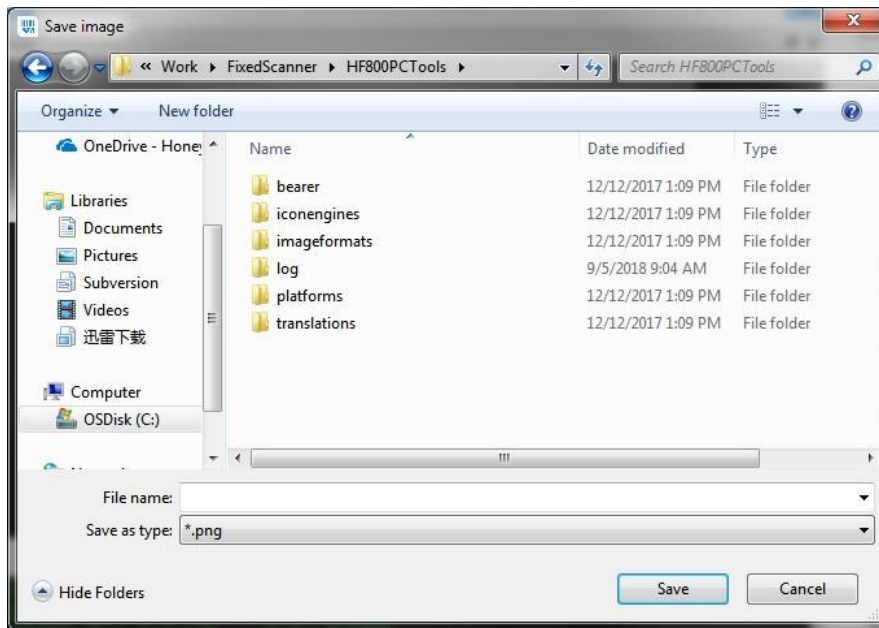


これで、リーダーはこの切り取りウィンドウ内にあるバーコードのデコードのみを実行できるようになりました。

画像の切り取りが不要になったら、 を押してこの機能を無効にします。

画像の保存

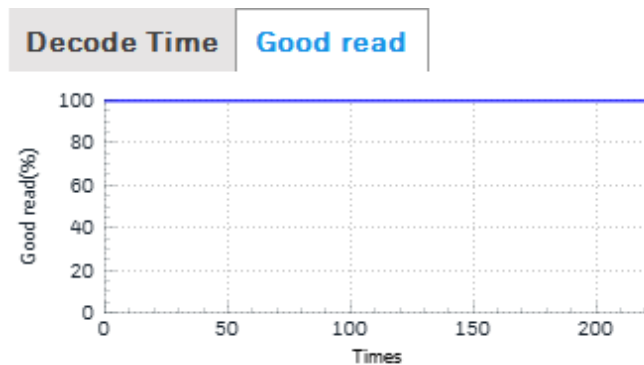
Live View (ライブ・ビュー) ウィンドウの画像を保存したい場合は、 を押すと、画像をローカル PC の特定のパスに保存することができます。以下の図に示すようなダイアログがポップアップし、ユーザーは画像を保存する場所を選択します。



チャート・パネル

リーダーが動作中で、Live View（ライブ・ビュー）機能が有効である場合に表示されます。

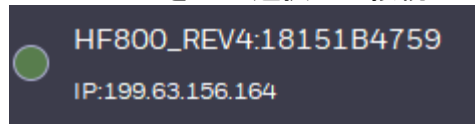
このパネルは、デコード時間の統計値と読み取り成功率を示します。座標軸は以下の図のように示されます。




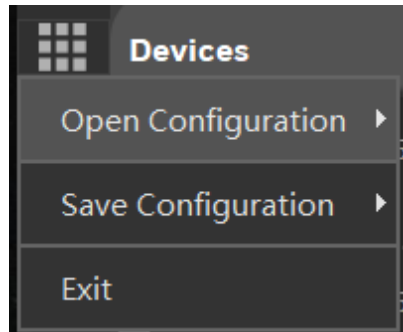
設定を読み込む／保存する

DataMax では、PC に、または PC から、設定を読み込んだり保存したりすることができます。操作手順は以下のとおりです。

1. デバイスを 1 つ選択して接続します。

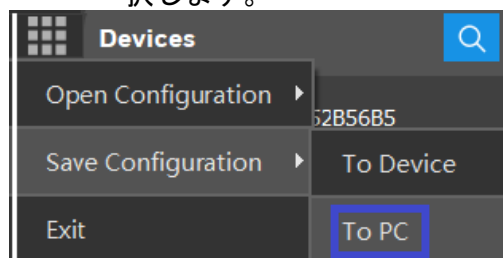


2. Devices (デバイス) の左側にある  ボタンをクリックします。

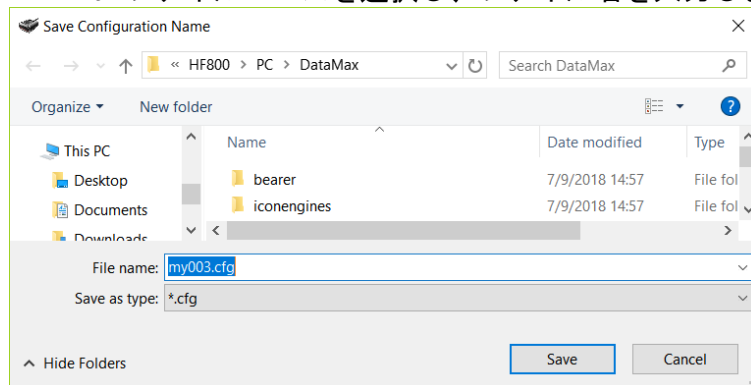


3. デバイスの設定を PC に保存するには :

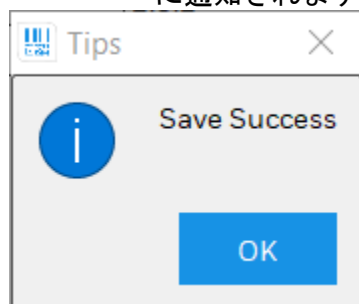
- a. 「Save Configuration (設定を保存)」 > 「To PC (PC へ)」 ボタンを選択します。



- b. ファイル・パスを選択し、ファイル名を入力します。

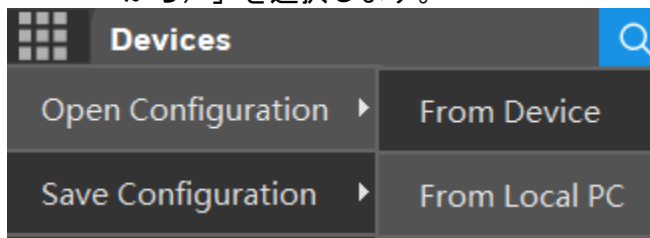


- c. 「Save Success (保存成功)」が表示され、保存に成功したことがユーザーに通知されます。

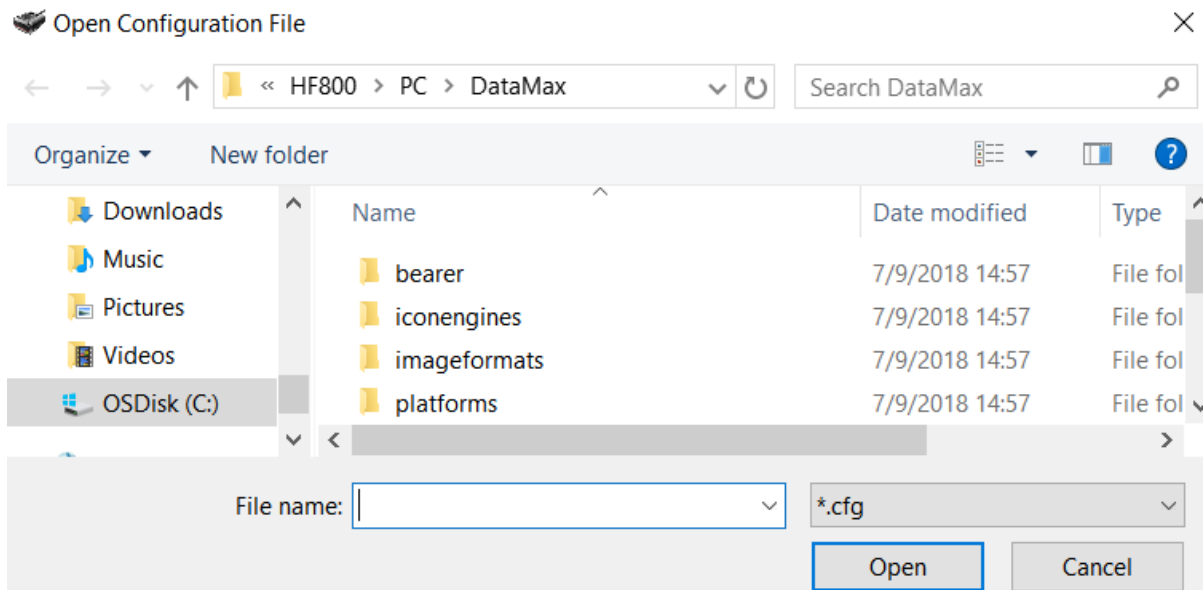


4. PC の設定をデバイスに読み込むには :

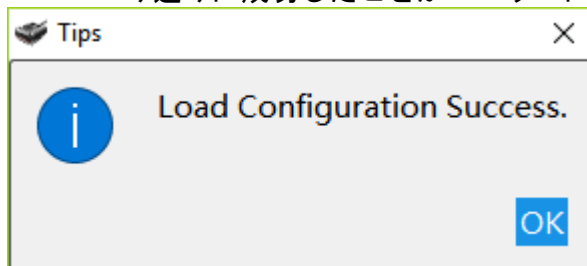
- a. 「Open Configuration (設定を開く)」 > 「From local PC (ローカル PC から)」を選択します。



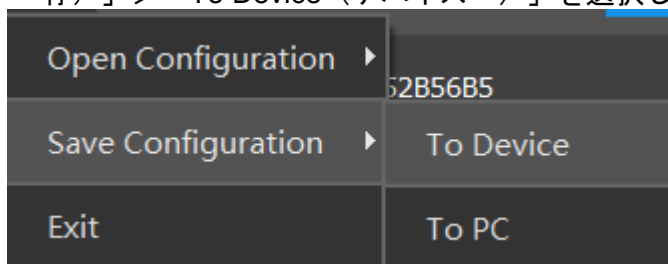
- b. ファイル・パスを選択し、ファイル名を入力して拡張子「.cfg」を選択します。



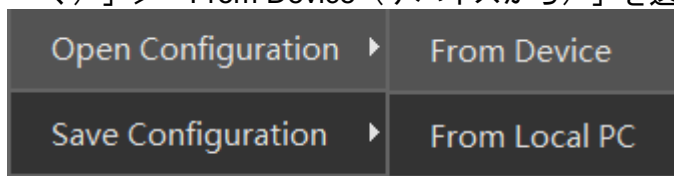
- c. 「Load Configuration Success (設定の読み込み成功)」が表示され、読み込みに成功したことがユーザーに通知されます。



5. DataMax の設定をデバイスに保存するには、「Save Configuration (設定を保存)」 > 「To Device (デバイスへ)」を選択します。



6. デバイスの設定を DataMax に読み込むには、「Open Configuration (設定を開く)」 > 「From Device (デバイスから)」を選択します。

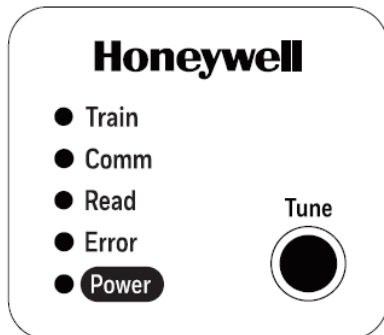


すべてデフォルトに戻す

デバイスを完全に工場出荷時のデフォルト・パラメーターに戻すには、Restore Factory Defaults Tune（工場出荷時設定に戻す調整）を使用する必要があります。このとき、確認を求めるメッセージが表示されます。環境パラメーターはすべて工場出荷時のデフォルト値に戻され、デバイスに保存された既存の設定はすべて消去されます。デバイスはリセットされるため、工場出荷時のデフォルト設定で、実行モードで起動します。


操作手順：

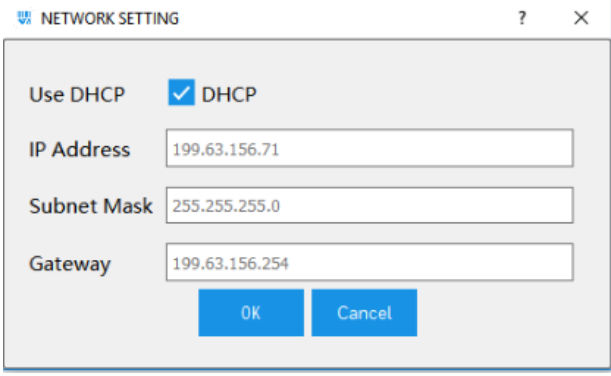
1. 「Tune（調整）」ボタンを 20 秒以上長押しして離すと、リーダーはユーザーがデフォルト操作を確認するまで待ちます。「Train（トレーニング）」（赤色／緑色の LED）が 5Hz で点滅します。
2. 10 秒以内に再度ボタンを押すと、リーダーはデフォルトの設定に戻ります。
リーダーが正常にデフォルトの設定に戻ると、ブザーはメニュー設定成功音を鳴らします。Read（読み取り）LED が緑色で点灯します。
10 秒経っても再度ボタンが押されない場合、リーダーは前の作業状態に戻りません。



通信インターフェイスの設定

ネットワーク設定

DataMax の設定プログラムを開き、デバイスを接続してから  ボタンをクリックします。



Field	Value
Use DHCP	<input checked="" type="checkbox"/> DHCP
IP Address	199.63.156.71
Subnet Mask	255.255.255.0
Gateway	199.63.156.254

DHCP が有効な場合、IP Address (IP アドレス)、Subnet Mask (サブネット・マスク)、および Gateway (ゲートウェイ) は使用できません。デバイスは、IP アドレス、サブネット・アドレス、およびゲートウェイを、DHCP サーバーから自動的に取得します。

DHCP が無効な場合は、固定 IP アドレス、サブネット、およびゲートウェイを設定することができます。OK ボタンをクリックすると、設定はデバイスに保存され、デバイスのリブート後に有効になります。

DHCP を無効にするということは、リーダーが指定された固定 IP アドレス、サブネット・マスク、およびゲートウェイを使用するということです。

注：

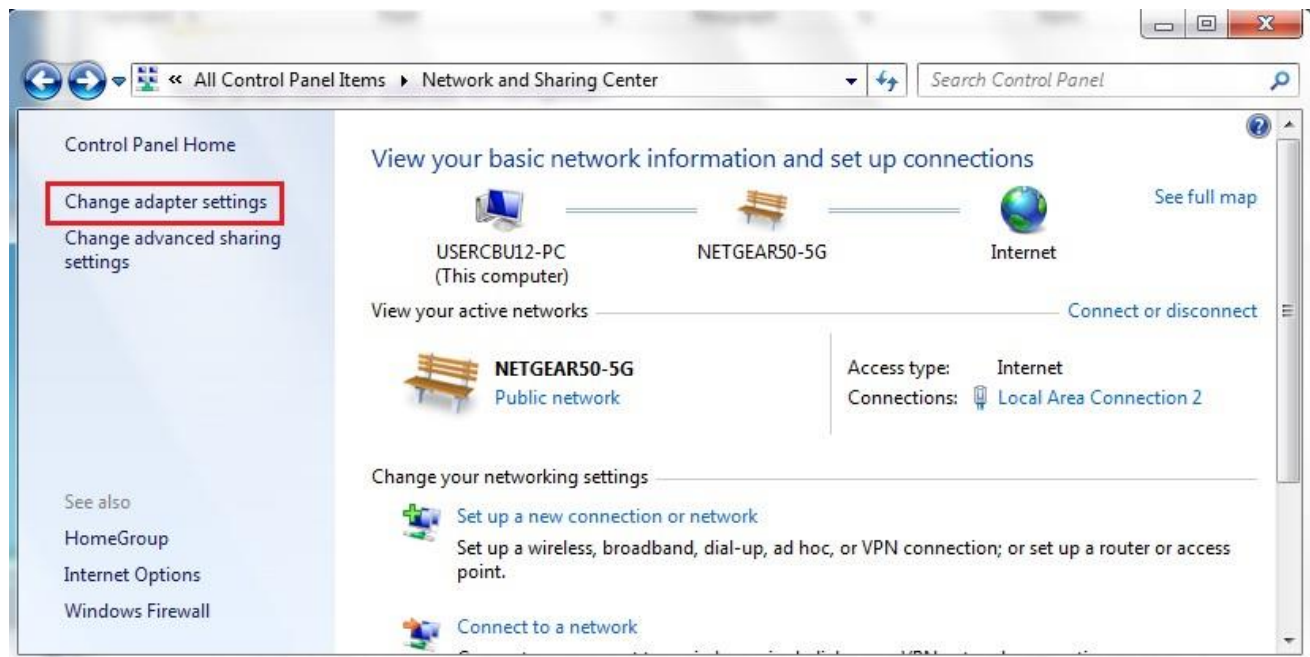
ネットワーク・ケーブルを直接 PC に接続したい場合は、リーダーを使用して設定バーコード「NWKDHP0」をスキャンしてから「RESET_」をスキャンして、リーダーをリセットします。次に、PC に固定 IP を設定します。以下の設定に従ってください。

ネットワーク設定バーコードは、本書巻末の付録 A にあります。

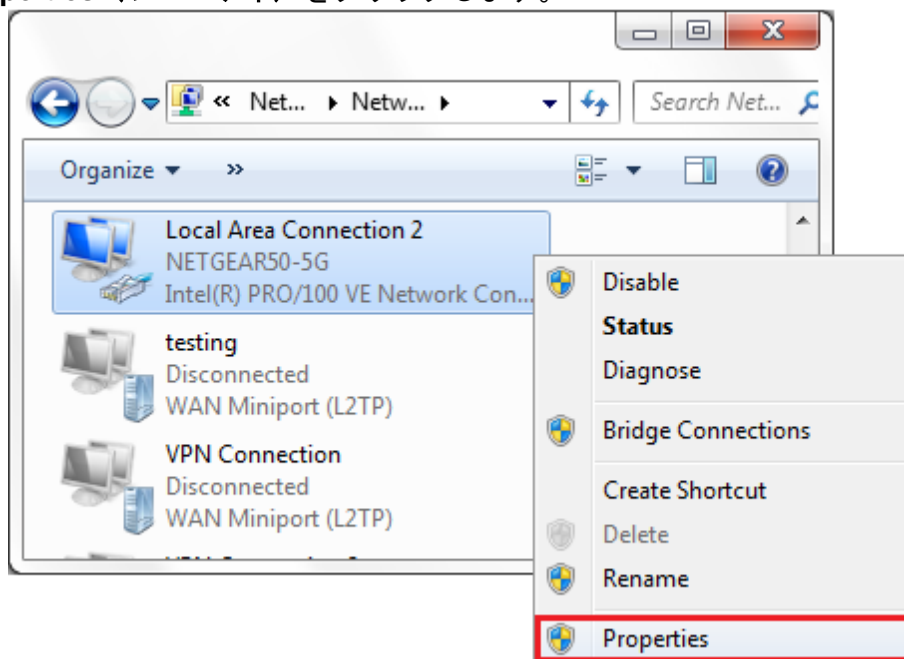
1. **Start (スタート) メニュー** > **Control Panel (コントロール パネル)** > **Network and Sharing Center (ネットワークと共有センター)** をクリックします。

(Windows8 以降の場合は、検索して Control Panel (コントロール パネル) を開き、Network and Internet (ネットワークとインターネット) を選択します。)

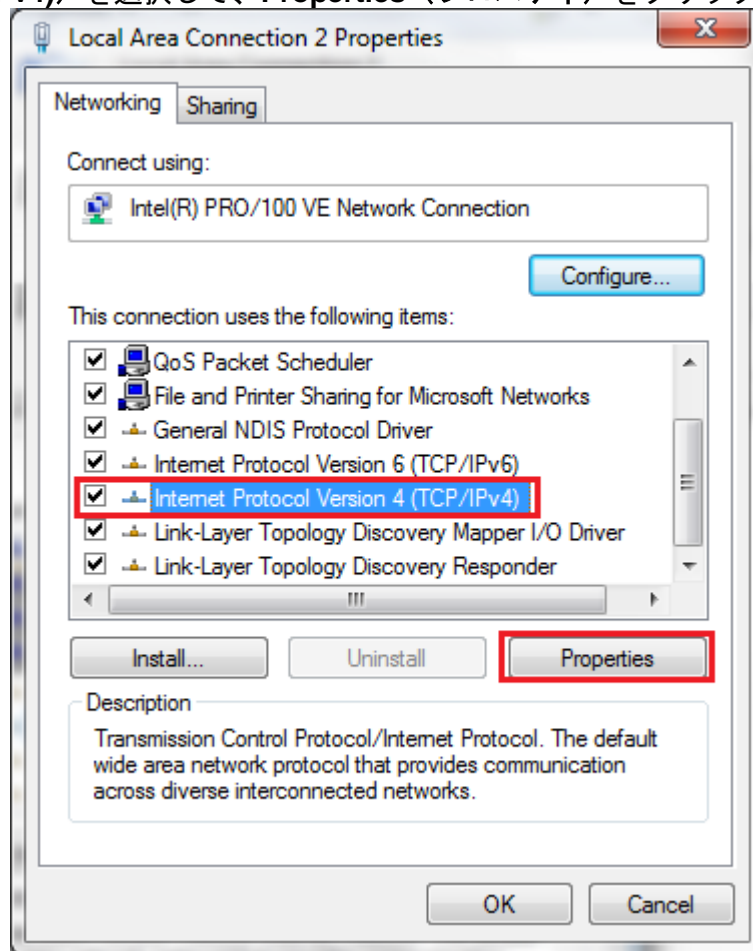
2. **Change adapter settings (アダプターの設定の変更)** をクリックします。



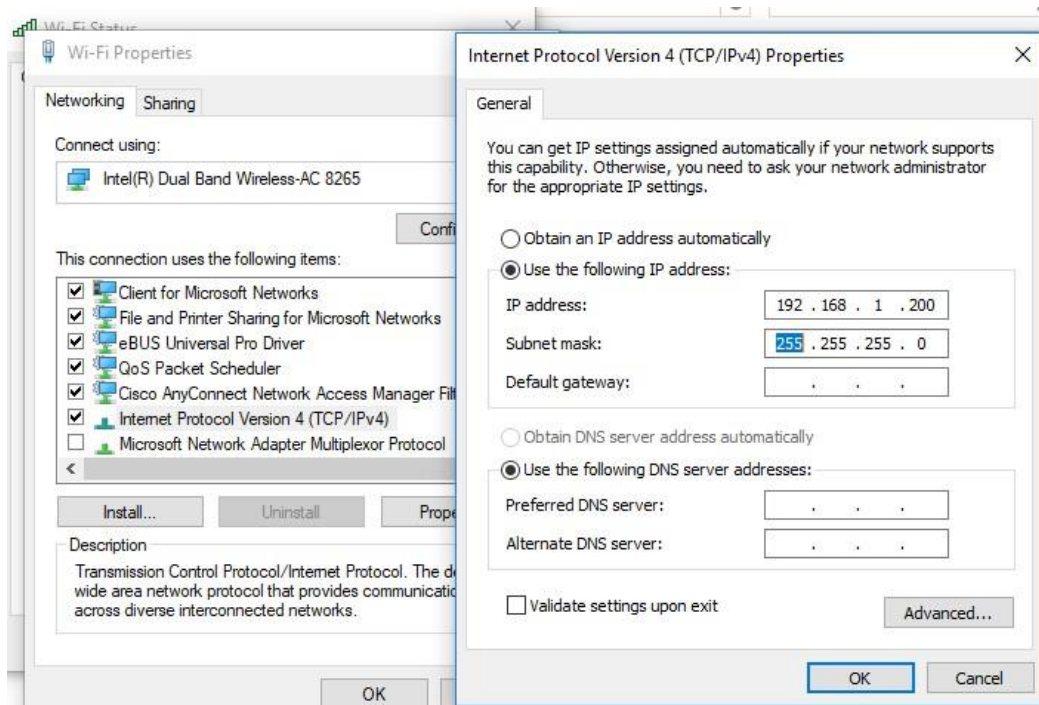
3. **Local Area Connection**（ローカル エリア接続）を右クリックして、**Properties**（プロパティ）をクリックします。



4. **Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)** (インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)) を選択して、**Properties** (プロパティ) をクリックします。



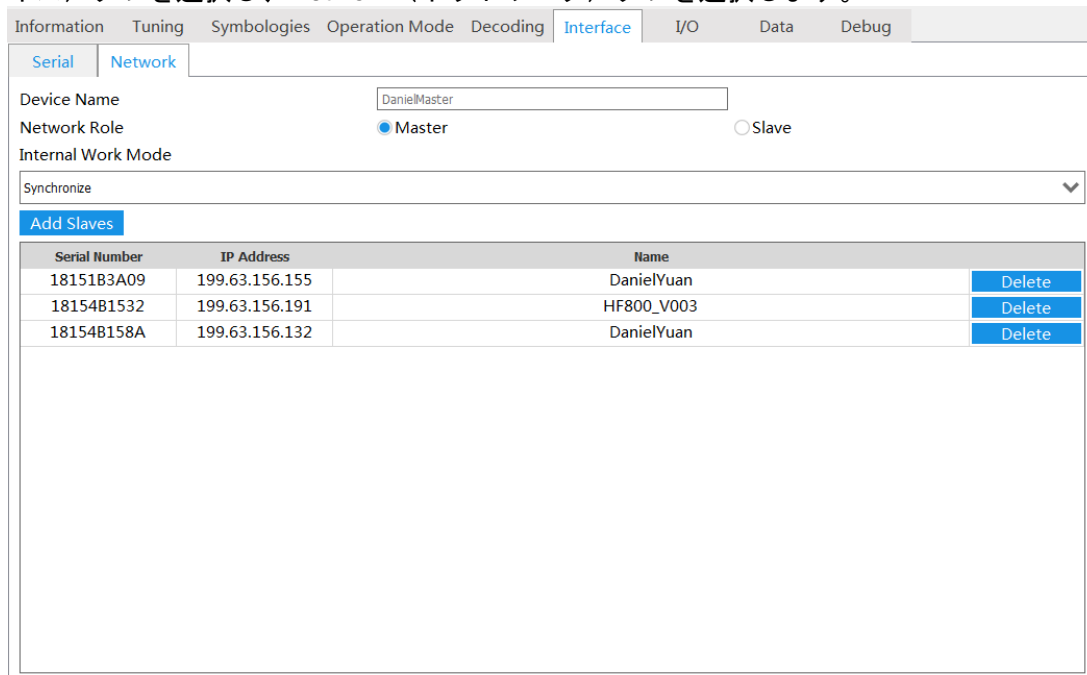
5. 「**Use the following IP address** (以下の IP アドレスを使う)」を選択して、IP address (IP アドレス)、Subnet mask (サブネット・マスク)、Default gateway (デフォルト・ゲートウェイ)、および DNS サーバーを入力します。**OK** をクリックして、**ローカル・エリア接続**のプロパティ・ウィンドウを閉じます。(リーダーのデフォルトの IP アドレスは 192.168.1.110 です。PC の IP アドレスとリーダーの IP アドレスが同じネットワーク・セグメントにあることを確認してください。)



ネットワークのグループ化（マスター／スレーブ）

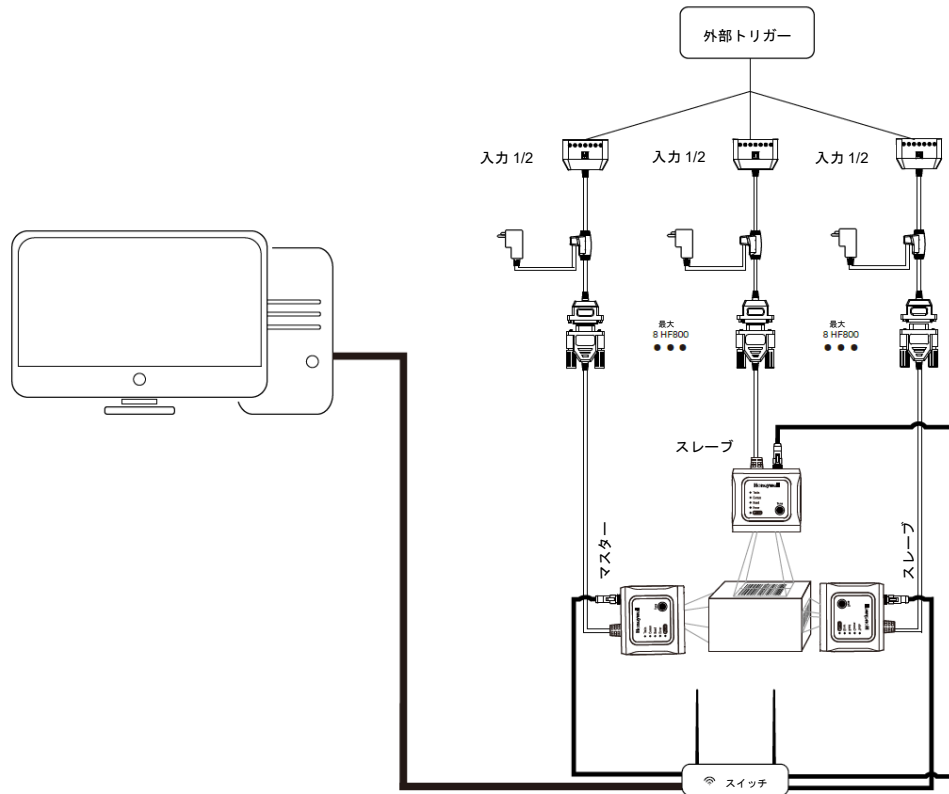
HF800 では、ネットワークのグループ化をサポートしており、お客様は1つのグループに最大で8台のリーダーを設定できます。ネットワークのグループ化では、Synchronize（同期）モードと Pass-through（パススルー）モードの2つのモードをサポートしています。Synchronize（同期）モードでは、1つのトリガー・ソースでグループ内のすべてのHF800をトリガーすることをお勧めします。Pass-through（パススルー）モードでは、すべてのHF800を1つのソースでトリガーするか、個別にトリガーできます。

DataMax の設定プログラムを開き、デバイスを接続してから Interface（インターフェイス）タブを選択し、Network（ネットワーク）タブを選択します。

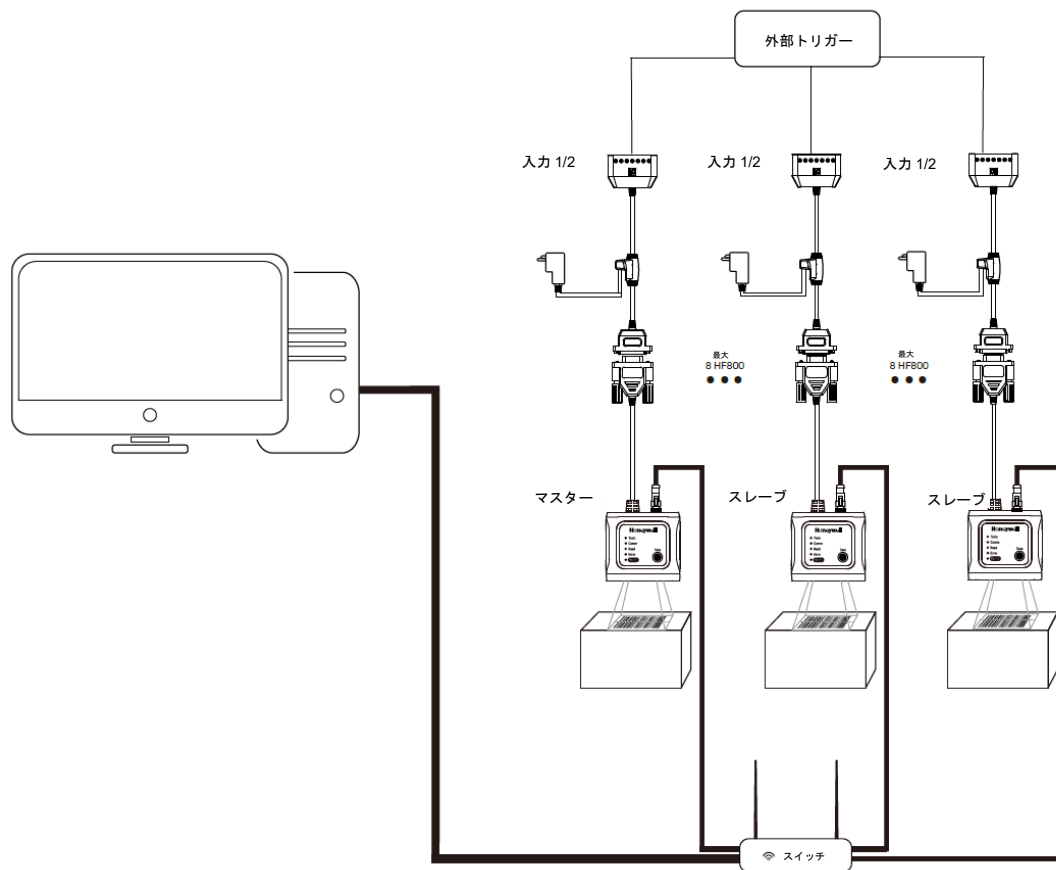


選択したデバイスがマスターである場合は、Master（マスター）作業モードを選択できます。

1. Synchronize（同期）モード：マスターはスレーブ・デバイスからデータを受信します。すべてのデータを処理してから（データ・フォーマット、シーケンス）、データ全体をマスターのインターフェイスを介して送信します。
注：マスターとスレーブのシンボル体系設定が同じであることを確認してください。マスターがサポートしていない特定のシンボル体系が、スレーブでデコードされ、送信されると、マスターはこのシンボル体系を無視し、何も送信しません。
Synchronize（同期）モードの通常のアプリケーション・レイアウトは以下のとおりです。



2. Pass-through（パススルー）モード：マスターは中継器として動作し、マスターのインターフェイスを介して処理されることなくスレーブ・デバイスからのすべてのデータを送信します。接続デバイスがマスターとして用いられている場合、DataMax の設定プログラムでは、現在のグループ化情報も一覧表示します。
Pass-through（パススルー）モードの通常のアプリケーション・レイアウトは以下のとおりです。



シリアル・インターフェイスの設定

シリアル・インターフェイスは、PC または端末のシリアル・ポートに接続する際

に使用します。DataMax の **Interface** タブを選択し、**Serial** ボタンをクリックします。

Information	Tuning	Symbologies	Operation Mode	Decoding	Interface	I/O	Data	Debug
Serial		Network						
Baudrate (Default:9)	115200							
Word Format (Default:2)	8 Data Bits 1 Stop Bit No Parity							
XON/XOFF Software Flow Control (Default:0)	<input type="checkbox"/>							
ACK/NAK Software Flow Control (Default:0)	<input type="checkbox"/>							
RS-232 Receiver Time-Out (sec) (Min~Max=0~300 Default:0)	0							
RS-232 Time-Out (ms) (Min~Max=0~5100 Default:3100)	3100							
RTS/CTS Hardware Flow Control (Default:0)	RTS/CTS Off							

- Baudrate (ボーレート)** : 指定した速度で、リーダーから端末にデータを送信します。ホスト端末には、リーダーと同じボーレートを設定する必要があります。デフォルト値 = 115200。
- Data Bits (データ・ビット)** : ワード長を 1 文字あたり 7 または 8 データ・ビットに設定します。アプリケーションが 16 進数の ASCII 文字 0 から 7F と 10 進数 (文字、数字、句読点) のみを必要とする場合は、7 データ・ビットを選択します。フル ASCII セットを使用する必要があるアプリケーションの場合は、1 文字あたり 8 データ・ビットを選択します。デフォルト値 = 8。

3. **Stop Bits (ストップ・ビット)** : ストップ・ビットを 1 または 2 に設定します。デフォルト値 = 1。
4. **Parity (パリティ)** : 妥当性確認のため、文字のビット・パターンを確認する方法を提供しています。デフォルト値 = None (なし)。
5. **XON/XOF** : 標準 ASCII 制御文字を使用して、リーダーにデータ送信の開始 (XON/XOFF オン) またはデータ送信の停止 (XON/XOFF オフ) を指示できます。ホストがリーダーに XOFF 文字 (DC3、16 進数の 13) を送信すると、データの送信は停止します。送信を再開するには、ホストから XON 文字 (DC1、16 進数の 11) を送信します。データ送信は、XOFF が送信された場所から再開します。デフォルト値 = XON/XOFF Off (XON/XOFF オフ)。
6. **ACK/NAK** : データ送信後、リーダーはホストからの ACK 文字 (16 進数の 06) または NAK 文字 (16 進数の 15) の応答を待ちます。ACK を受信すると、その通信サイクルは完了し、リーダーはさらにバーコードを検索します。NAK を受信すると、バーコード・データの最後のセットが再送信され、リーダーは再度 ACK/NAK を待ちます。
7. **RS232 Receiver Time-out (RS232 レシーバー・タイムアウト)** : 本機は RS232 レシーバー・タイムアウトの期限が切れるまで、受信するために起動したままになります。RS232 レシーバーがスリープ状態の場合は文字を送信してレシーバーを起動し、タイムアウトをリセットすることができます。
8. **RS232 Hardware Flow Control (RS232 ハードウェアのフロー制御)**
ホスト・デバイスからソフトウェア・コマンドを使用して、リーダーからのデータ送信を制御できるようにします。RTS/CTS がオフの場合、データ・フロー制御は使用されません。
Flow Control, No Timeout (フロー制御、タイムアウトなし) : リーダーは送信するデータがある場合に RTS をアサートし、またホストが CTS をアサートするのを待ち続けます。
Two-Direction Flow Control (2 方向フロー制御) : リーダーは、ホストが送信可能な場合に RTS をアサートします。ホストは、デバイスが送信可能な場合に CTS をアサートします。
Flow Control with Timeout (フロー制御、タイムアウトあり) : リーダーは送信するデータがある場合に RTS をアサートし、またホストが CTS をアサートするまでの遅延時間だけ待ちます (RS232 Time-out (RS232 タイムアウト) を参照)。CTS がアサートされないまま遅延時間が経過すると、デバイスの送信バッファークリアーされ、スキャンを再開することができます。デフォルト値 = RTS/CTS off (RTS/CTS オフ)。
9. **RS232 Time-out (RS232 タイムアウト)** : **Flow Control with Timeout (フロー制御、タイムアウトあり)** を使用する場合は、ホストからの CTS を待つ遅延時間をプログラミングする必要があります。以下のバーコードをスキャンして、タイムアウトの長さ (ミリ秒単位) を設定し、タイムアウト (1~5100 ミリ秒の間) を設定します。

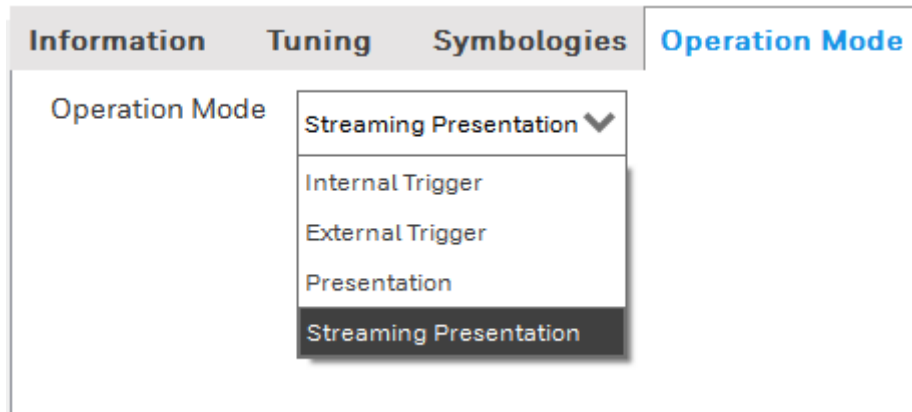
操作モード

Streaming Presentation モード

Streaming Presentation モードでは、リーダーは常にオンのまま、バーコードを検索し続けます。リーダーの照明およびエイマーのオンまたはオフを設定できます。このモードで動作するようリーダーを設定するには、まず DataMax の設定プログラムを開いて特定のデバイスに接続します。

次に、「Operation Mode（操作モード）」タブ・ページに移動します。

「Operation Mode（操作モード）」ドロップ・メニューをクリックし、「Streaming Presentation」を選択します。リーダーは、直ちに Streaming Presentation モードになります。



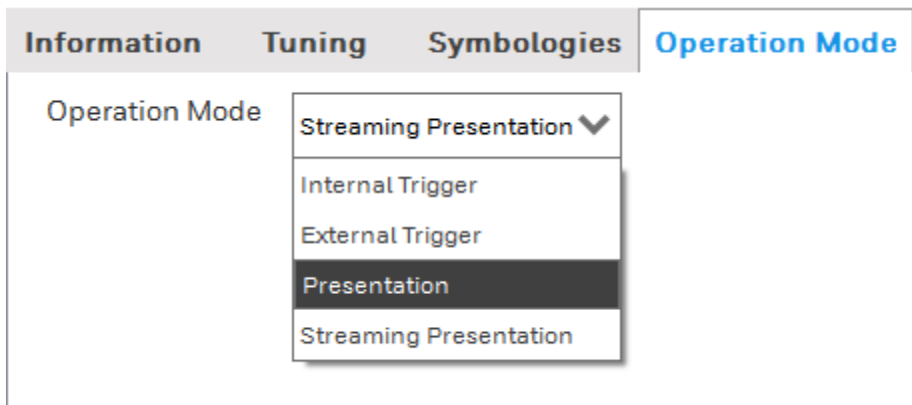
Presentation（プレゼンテーション）モード

Presentation（プレゼンテーション）モードでは、環境光とリーダーの照明を使用してバーコードを検出します。Presentation（プレゼンテーション）モードでは、バーコードをリーダーにかざすまで LED は点灯しません。リーダーにかざすと、エイマーがオンになり、LED が点灯してコードを読み取ります。室内の照明レベルが十分でない場合、Presentation（プレゼンテーション）モードは正常に動作しません。

このモードで動作するようリーダーを設定するには、まず DataMax の設定プログラムを開いて特定のデバイスに接続します。

次に、「Operation Mode（操作モード）」タブ・ページに移動します。

「Operation Mode（操作モード）」ドロップ・メニューをクリックし、「Presentation（プレゼンテーション）」を選択します。リーダーは、直ちに Presentation（プレゼンテーション）モードになります。



注：このモードでは、パラメーター「Re-read Delay（リリード・ディレイ）」も使用できます。詳細については、「Streaming Presentation モード」を参照してください。

External Trigger（外部トリガー）モード

External Trigger（外部トリガー）モードでは、リーダーは外部からのトリガー信号を待ちます。この信号は、パルスまたはラッチされた電気レベルです。リーダーがこの信号を検出すると、直ちにバーコードの検索を開始します。

Working Mode（作業モード）は「One Shot（1回）」、「Burst（バースト）」、および「Continuous（連続）」から選択できます。

このモードを有効にするには、まず「Operation Mode（操作モード）」タブ・ページに移動します。

「Operation Mode（操作モード）」ドロップ・メニューをクリックし、「External Trigger（外部トリガー）」を選択します。

リーダーは、直ちに External Trigger（外部トリガー）モードになります。

Information	Tuning	Symbologies	Operation Mode	Decoding	
Operation Mode					
Operation Mode		External Trigger			
Working Mode		One Shot			
Trigger Times (0~1000)		1000			
External Trigger Delay(ms) (0~2000)		0			
				Trigger On	Trigger Off

External Trigger Delay（外部トリガー遅延）

External Trigger Delay（外部トリガー遅延）は、外部トリガー信号の検出時に有効になります。遅延時間がゼロを超える場合、リーダーはユーザーが指定した時間遅延してからトリガーされます。

遅延時間がゼロの場合、リーダーは直ちにトリガーされます。

External Trigger Delay(ms) (0~2000)	0
--	---

リモート・コマンドを介してトリガーする

リーダーは、シリアルまたはネットワークを介して特定の ASCII コマンドを送信してトリガーすることもできます。

起動：SYN T CR (ASCII 22 84 13)

停止：SYN U CR (ASCII 22 85 13)

リーダーは、バーコードを読み取るか、停止コマンドが送信されるか、もしくはタイムアウトの期限に達するまで、スキャンし続けます。

ネットワークを介してトリガー・コマンドを送信する TCP ポートをカスタマイズしたい場合は、Interface (インターフェイス) タブに移動し、Network (ネットワーク) サブ・タブ・ページを選択してポート値を変更します (デフォルト値は 55256)。

Customize Trigger TCP Port

55256

One Shot (1 回) モード

External Trigger (外部トリガー) モードの作業モードです。このモードは、「One Shot (1 回)」を選択すると有効になります。

Working Mode

One Shot

有効にすると、リーダーは画像を 1 つだけ撮影し、外部トリガー信号検出時にこの画像のデコードを試みます。

Burst (バースト) モード

External Trigger (外部トリガー) モードの作業モードです。このモードは、「Burst (バースト)」を選択すると有効になります。

Working Mode

Burst

有効にすると、リーダーは外部トリガー信号の検出時にバーコードの検索を開始します。この状態は、外部信号を除去しても、バーコードを 1 つ読み取るか、タイムアウトが発生するまで維持されます。

Continuous (連続) モード

External Trigger (外部トリガー) モードの作業モードです。このモードは、「Continuous (連続)」を選択すると有効になります。

Working Mode

Continue

このモードでは、トリガー後は外部トリガー信号をオンのままにする必要があります。トリガー後に外部トリガー信号をオフにすると、リーダーは直ちにオフになります。

リーダーがバーコードを読み取ったり、タイムアウトが発生した場合は、トリガー信号がまだオンであってもリーダーはオフになります。

Internal Trigger（内部トリガー）モード

Operation Mode（操作モード）を Internal Trigger（内部トリガー）に設定すると、リーダーは Internal Trigger（内部トリガー）モードに切り替わります。

このモードでは、リーダーはユーザー指定の時間間隔で無限にトリガーします。

時間間隔の設定方法については、「デコーダー設定」の章の「Read Timeout（読み取りタイムアウト）」を参照してください。

The screenshot shows a configuration window with several tabs: Information, Tuning, Symbologies, Operation Mode (selected), and Decoding. Under the 'Operation Mode' tab, there are four main sections: 'Operation Mode' with a dropdown menu showing 'External Trigger' and 'Internal Trigger' (selected); 'Working Mode' with a dropdown menu showing 'External Trigger' and 'Presentation'; 'Trigger Times (0~1000)' with an empty input field; and 'External Trigger Delay(ms) (0~2000)' with an input field containing '0'. At the bottom right, there are two blue buttons labeled 'Trigger On' and 'Trigger Off'.

シンボル体系

リーダーは、各シンボル・タイプの読み取りを個別に有効化または無効化できるように設定できます。また、特定のシンボル・タイプに適した機能を制御できます。

HF800 で選択できるサポート可能なシンボル体系は以下のとおりです。

Aztec Code、Codabar、Codablock A、Codablock F、Code 11、Code 128、Code 39、Code 93、Data Matrix、EAN/JAN-13、EAN/JAN 8、Interleaved 2 of 5、Matrix 2 of 5、MaxiCode、MicroPDF、PDF417、MSI、QR Code、RSS Expanded、RSS Limited、RSS-14、UPC-A、UPC E、Chinese Sensible (Han Xin) code、Maxicode、DPM code

注：これらのシンボル体系の単一または複数選択時の設定については、この章のそれぞれの部分を参照してください。

メッセージ長の説明

一部のバーコードのシンボル体系では、有効読み取り長を設定する必要があります。スキャンしたバーコードのデータ長が有効読み取り長と一致しない場合、リーダーはエラー音を鳴らします。最小長と最大長に同じ値を設定し、リーダーが固定長バーコード・データを強制的に読み取るようにしたい場合もあります。

有効読み取り長の設定により、誤読の可能性を減らすことができます。

例： 文字数 9～20 のバーコードのみをデコードします。

最小長 = 09、最大長 = 20

例： 文字数 15 のバーコードのみをデコードします。

最小長 = 15、最大長 = 15

最小長と最大長、およびデフォルト値はそれぞれのシンボル体系に含まれていません。これらは、DataMax の設定プログラムで個別に設定できます。

1 次元シンボル体系

すべての 1 次元シンボル体系を有効／無効にする

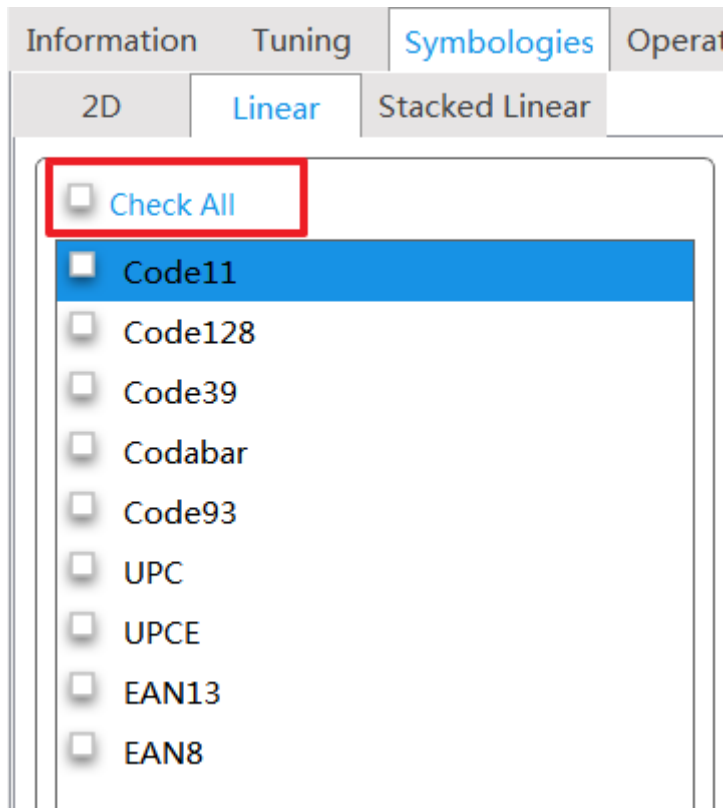
DataMax の設定プログラムを開き、まずデバイスを接続します。

「Symbolologies (シンボル体系)」タブ・ページに移動し、「Linear (リニア)」

サブ・ページをクリックします。

「Check All (すべてチェック)」チェック・ボックスにチェックを付けると、リスト内の 1 次元シンボル体系がすべて有効になります。

チェックを外すと、リスト内の 1 次元シンボル体系がすべて無効になります。



Code 11

左側のリストで「Code 11」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

Redundant Times (0~10)	<input type="text" value="0"/>
Minimum Length (1~80)	<input type="text" value="4"/>
Maximum Length (1~80)	<input type="text" value="80"/>
Check Digits (0~1)	<input type="text" value="1"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

Check Digits (チェック・デジット) : Code 11 バーコードで使用するチェック・デジットを、1つにするか2つにするか設定します。

Code 128

左側のリストで「Code 128」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

Code128

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Minimum Length (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Maximum Length (Default:80)	<input type="text" value="80"/>
Append Mode (Default:1)	<input checked="" type="checkbox"/>
Function Code Transmit (Default:0)	<input type="checkbox"/>
ISBT Decoding (Default:0)	<input type="checkbox"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

Append Mode (連結モード) : この機能により、HF800 は、ホスト・コンピューターに送信する複数の Code 128 バーコードのデータを、事前にまとめて連結できるようになりました。HF800 は、連結のトリガー文字を含む Code 128 バーコードを検出すると、連結のトリガーを含まない Code 128 バーコードを読み取るまで、Code 128 バーコードをバッファします。その後、データはバーコードが読み取られた順番に送信されます (FIFO)。

Function Code Transmit (ファンクション・コード送信) : 有効にした場合、機能文字の 16 進数の値がデータ・ストリームに送信されます。Code 128 では、Function 1、Function 2、Function 3、Function 4 のすべてによって、特別な事象が ISO 規格に準拠して発生します。有効にした場合、この設定により Function 1、2、4 は無視され、生で送信されます。Function 3 は Code 128 のメニュー・コマンドを表すため、Function 3 には適用されません。

ISBT Decoding (ISBT のデコード) : ISBT 128 アプリケーション仕様では、1) 血液製剤にラベル付けするために重要なデータ要素について、2) 高度なセキュリティと省スペース設計により現在推奨される Code 128 について、3) 隣接するシンボルの連結をサポートする Code 128 の種類について、および、4) 血液製剤のラベル上のバーコードの標準レイアウトについて説明しています。

Code 39

左側のリストで「Code 39」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

Code39

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Minimum Length (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Maximum Length (Default:48)	<input type="text" value="48"/>
Transmit Start/Stop Characters (Default:0)	<input type="checkbox"/>
Check Character (Default:0)	<input type="text" value="No check"/> ▼
Append Mode (Default:0)	<input type="checkbox"/>
Full ASCII Mode (Default:0)	<input type="checkbox"/>
Code 32 (PARAF) Decoding (Default:0)	<input type="checkbox"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

Transmit Start/Stop Characters (送信スタート/ストップ・キャラクター) : スタート/ストップ・キャラクターは、バーコードの最初と最後の文字です。ユーザーは、スタート/ストップ・キャラクターを送信するかどうかを選択できます。

Check Character (チェック・キャラクター) : **No Check Character (チェック・キャラクターなし)** は、HF800 がチェック・キャラクターの有無にかかわらずバーコード・データの読み取りや送信を行うことを示しています。Check Character (チェック・キャラクター) が **Validate, but Don't Transmit (有効、送信しない)** に設定されている場合、本機はチェック・キャラクターありで印刷された Code 39 バーコードのみを読み取りますが、スキャン・データの送信時にチェック・キャラクターは含めません。Check Character (チェック・キャラクター) が **Validate and Transmit (有効、送信する)** に設定されている場合、HF800 はチェック・キャラクターありで印刷された Code 39 バーコードのみを読み取り、スキャン・データの最後にこのキャラクターを送信します。

Append Mode (連結モード) : この機能により、HF800 は、ホスト・コンピューターに送信する複数の Code 39 バーコードのデータを、事前にまとめて連結できるようになりました。HF800 は、連結のトリガー文字を含む Code 39 バーコードを検出すると、連結のトリガーを含まない Code 39 バーコードを読み取るまで、Code 39 バーコードをバッファリングします。その後、データはバーコードが読み取られた順番に送信されます (FIFO)。

Full ASCII Mode (フル ASCII モード) : Full ASCII Mode (フル ASCII モード) による Code 39 のデコードを有効にすると、バーコード・シンボル内の特定の文字ペアは、単一の文字として解釈されます。例 : \$V は ASCII 文字 SYN としてデコードされ、/C は ASCII 文字 # としてデコードされます。

フル ASCII 表														
NUL	%U	DLE	\$P	SP SPACE	0 0	@	%V	P	P	'	%W	p	+P	
SOH	\$A	DC1	\$Q	! /A	1 1	A	A	Q	Q	a	+A	q	+Q	
STX	\$B	DC2	\$R	" /B	2 2	B	B	R	R	b	+B	r	+R	
ETX	\$C	DC3	\$S	# /C	3 3	C	C	S	S	c	+C	s	+S	
EOT	\$D	DC4	\$T	\$ /D	4 4	D	D	T	T	d	+D	t	+T	
ENQ	\$E	NAK	\$U	% /E	5 5	E	E	U	U	e	+E	u	+U	
ACK	\$F	SYN	\$V	& /F	6 6	F	F	V	V	f	+F	v	+V	
BEL	\$G	ETB	\$W	' /G	7 7	G	G	W	W	g	+G	w	+W	
BS	\$H	CAN	\$X	(/H	8 8	H	H	X	X	h	+H	x	+X	
HT	\$I	EM	\$Y) /I	9 9	I	I	Y	Y	i	+I	y	+Y	
LF	\$J	SUB	\$Z	* /J	:	/Z	J	J	Z	Z	j	+J	z	+Z
VT	\$K	ESC	%A	+ /K	;	%F	K	K	[%K	k	+K	{	%P
FF	\$L	FS	%B	, /L	<	%G	L	L	¥	%L	l	+L		%Q
CR	\$M	GS	%C	- -	=	%H	M	M]	%M	m	+M	}	%R
SO	\$N	RS	%D	. .	>	%I	N	N	^	%N	n	+N	~	%S
SI	\$O	US	%E	/ /O	?	%J	O	O	_	%O	o	+O	DEL	%T

文字ペア/M および/N は、それぞれマイナス記号とピリオドとしてデコードされます。
文字ペア/P から/Y は、0~9 としてデコードされます。

Code 32 (PARAF) のデコード : Code 32 Pharmaceutical は、イタリアの医薬分野で使用されている Code 39 シンボル体系の一種です。このシンボル体系は、PARAF とも呼ばれています。

Interleaved 2 of 5

左側のリストで「Interleaved 2 of 5」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

Check Digit (チェック・デジット) : No Check Digit (チェック・デジットなし) は、HF800 がチェック・デジットの有無にかかわらずバーコード・データの読み取りや送信を行うことを示しています。Check Digit (チェック・デジット) が **Validate, but Don't Transmit (有効、送信しない)** に設定されている場合、本機はチェック・デジットありで印刷された Interleaved 2 of 5 バーコードのみを読み取りますが、スキャン・データの送信時にチェック・デジットは含めません。Check Digit (チェック・デジット) が **Validate and Transmit (有効、送信する)** に設定されている場合、HF800 はチェック・デジットありで印刷された Interleaved 2 of 5 バーコードのみを読み取り、スキャン・データの最後にこのデジットを送信します。

GS1-128

左側のリストで「GS1-128」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

Codabar

左側のリストで「Codabar」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

Codabar

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Minimum Length (Default:4)	<input type="text" value="4"/>
Maximum Length (Default:60)	<input type="text" value="60"/>
Transmit Start/Stop Characters (Default:0)	<input type="checkbox"/>
Check Character (Default:0)	<input type="text" value="No check"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

Transmit Start/Stop Characters (送信スタート/ストップ・キャラクター) : スタート/ストップ・キャラクターは、バーコードの最初と最後の文字です。ユーザーは、スタート/ストップ・キャラクターを送信するかどうかを選択できます。

Check Character (チェック・キャラクター) : Codabar のチェック・キャラクターは、さまざまな「モジュラス」を使用して作成されています。HF800 をプログラミングして、モジュラス 16 のチェック・キャラクターを使用する Codabar バーコードのみを読み取るようにすることができます。**No Check Character (チェック・キャラクターなし)** は、HF800 がチェック・キャラクターの有無にかかわらずバーコード・データの読み取りや送信を行うことを示しています。Check Character (チェック・キャラクター) が **Validate and Transmit (有効、送信する)** に設定されている場合、HF800 はチェック・キャラクターありで印刷された Codabar バーコードのみを読み取り、スキャン・データの最後にこのキャラクターを送信します。Check Character (チェック・キャラクター) が **Validate, but Don't Transmit (有効、送信しない)** に設定されている場合、HF800 はチェック・キャラクターありで印刷された Codabar バーコードのみを読み取りますが、スキャン・データの送信時にチェック・キャラクターは含めません。

Code 93

左側のリストで「Code 93」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

Code93

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Minimum Length (Default:4)	<input type="text" value="0"/>
Maximum Length (Default:60)	<input type="text" value="80"/>
Append Mode (Default:0)	<input type="checkbox"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

Append Mode (連結モード) : この機能により、HF800 は、ホスト・コンピューターに送信する複数の Code 93 バーコードのデータを、事前にまとめて連結できるようになりました。この機能を有効にすると、HF800 はスペースで始まる Code 93 バーコード (スタートおよびストップ・シンボルを除く) を保管し、すぐにはデータを送信しません。HF800 はバーコードを読み取り順に保管して、それぞれから最初のスペースを削除します。HF800 は、スペース以外のキャラクターで始まる Code 93 バーコードを読み取ると、連結されたデータを送信します。

UPC-A

左側のリストで「UPC-A」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

UPC

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Convert UPC-A to EAN13 (Default:1)	<input type="checkbox"/>
Check Digit Transmit (Default:1)	<input type="checkbox"/>
Number System Digit Transmit (Default:1)	<input type="checkbox"/>
2 Digit Addenda (Default:0)	<input type="checkbox"/>
5 Digit Addenda (Default:0)	<input type="checkbox"/>
Addenda Required (Default:0)	<input type="checkbox"/>
Addenda Separator (Default:1)	<input type="checkbox"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Convert UPC-A to EAN13 (UPC-A を EAN13 に変換) : **UPC-A Converted to EAN-13 (UPC-A を EAN-13 に変換)** を選択すると、UPC-A バーコードは、先頭にゼロを追加して、13 桁の EAN-13 コードに変換されます。

Do not Convert UPC-A (UPC-A を変換しない) を選択すると、UPC-A コードは UPC-A として読み取られます。

Check Digit Transmit (チェック・デジットを送信) : これを選択することで、スキャン・データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定できます。

Number System Digit Transmit (ナンバー・システム・デジットを送信) : U.P.C.シンボルのナンバー・システム・デジットは、通常スキャン・データの最初に送信されますが、送信されないようプログラミングすることができます (オフ)。

2/5 Digit Addenda (2/5 桁のアドオン) : これを選択することで、スキャンされたすべての UPC-A データに 2 または 5 桁追加されます。

Addenda Required (アドオン要求) : Required (必要) に設定すると、HF800 はアドオンのある UPC-A バーコードのみを読み取ります。

Addenda Separator (アドオン・セパレーター) : この機能をオンにすると、バーコードのデータとアドオンのデータの間にスペースが挿入されます。オフにすると、スペースは挿入されません。

UPC-E

左側のリストで「UPC-E」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

UPCE

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
E0 Decoding (Default:1)	<input type="checkbox"/>
E1 Decoding (Default:0)	<input type="checkbox"/>
E Expand (Default:0)	<input type="checkbox"/>
E Check Digit Transmit (Default:1)	<input checked="" type="checkbox"/>
UPC-E0 Leading Zero (Default:1)	<input checked="" type="checkbox"/>
2 Digit Addenda (Default:0)	<input type="checkbox"/>
5 Digit Addenda (Default:0)	<input type="checkbox"/>
Addenda Required (Default:0)	<input type="checkbox"/>
Addenda Separator (Default:1)	<input checked="" type="checkbox"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

E0/E1 Decoding (E0/E1 のデコード) : ほとんどの U.P.C.バーコードは、0 ナンバー・システムで始まります。これらのコードには、UPC-E0 を使用してください。1 ナンバー・システムで始まるコードを読み取る必要がある場合は、オンを選択した UPC-E1 を使用してください。

E Expand (E 拡張) : UPC-E 拡張では、UPC-E コードを 12 桁の UPC-A 形式に拡張します。

E Check Digit Transmit (E チェック・デジットを送信) : チェック・デジットは、スキャン・データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定します。

UPC-E0 Leading Zero (UPC-E0 の先頭のゼロ) : この機能により、スキャン・データの最初にある先頭のゼロ (0) を送信できます。

2/5 Digit Addenda (2/5 桁のアドオン) : これを選択することで、スキャンされたすべての UPC-E データに 2 または 5 桁追加されます。

Addenda Required (アドオン要求) : Required (必要) に設定すると、HF800 はアドオンのある UPC-E バーコードのみを読み取ります。

Addenda Separator (アドオン・セパレーター) : この機能をオンにすると、バーコードのデータとアドオンのデータの間にスペースが挿入されます。オフにすると、スペースは挿入されません。

EAN-8

左側のリストで「EAN-8」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

EAN8

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Check Digit Transmit (Default:1)	<input checked="" type="checkbox"/>
2 Digit Addenda (Default:0)	<input type="checkbox"/>
5 Digit Addenda (Default:0)	<input type="checkbox"/>
Addenda Required (Default:0)	<input type="checkbox"/>
Addenda Separator (Default:1)	<input checked="" type="checkbox"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Check Digit Transmit (チェック・デジットを送信) : これを選択することで、スキャン・データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定できます。

2/5 Digit Addenda (2/5 桁のアドオン) : これを選択することで、スキャンされたすべての EAN-8 データに 2 または 5 桁追加されます。

Addenda Required (アドオン要求) : Required (必要) に設定すると、HF800 はアドオンのある EAN-8 バーコードのみを読み取ります。

Addenda Separator (アドオン・セパレーター) : この機能をオンにすると、バーコードのデータとアドオンのデータの間スペースが挿入されます。オフにすると、スペースは挿入されません。

EAN-13

左側のリストで「EAN-13」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

EAN13

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Check Digit Transmit (Default:1)	<input type="checkbox"/>
2 Digit Addenda (Default:0)	<input type="checkbox"/>
5 Digit Addenda (Default:0)	<input type="checkbox"/>
Addenda Required (Default:0)	<input type="checkbox"/>
Addenda Separator (Default:1)	<input type="checkbox"/>
ISBN On (Default:0)	<input type="checkbox"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Check Digit Transmit (チェック・デジットを送信) : これを選択することで、スキャン・データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定できます。

2/5 Digit Addenda (2/5 桁のアドオン) : これを選択することで、スキャンされたすべての EAN-13 データに 2 または 5 桁追加されます。

Addenda Required (アドオン要求) : Required (必要) に設定すると、HF800 はアドオンのある EAN-13 バーコードのみを読み取ります。

Addenda Separator (アドオン・セパレーター) : この機能をオンにすると、バーコードのデータとアドオンのデータの間にスペースが挿入されます。オフにすると、スペースは挿入されません。

ISBN On (ISBN オン) : オンに設定すると、EAN-13 Bookland シンボルが同等の ISBN 番号フォーマットに変換されます。

MSI

左側のリストで「MSI」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

Check Character (チェック・キャラクター) : MSI バーコードには、異なるタイプのチェック・キャラクターが使用されます。HF800 をプログラミングして、タイプ 10 のチェック・キャラクターを使用する MSI バーコードを読み取るようにすることができます。Check Character (チェック・キャラクター) が **Validate Type 10/11 and Transmit (タイプ 10/11 有効、送信する)** に設定されている場合、HF800 は指定したタイプのチェック・キャラクターありで印刷された MSI バーコードのみを読み取り、スキャン・データの最後にこのキャラクターを送信します。Check Character (チェック・キャラクター) が **Validate Type 10/11, but Don't Transmit (タイプ 10/11 有効、送信しない)** に設定されている場合、本機は指定したタイプのチェック・キャラクターありで印刷された MSI バーコードのみを読み取りますが、スキャン・データの送信時にチェック・キャラクターは含めません。

GS1 DataBar Omnidirectional

左側のリストで「GS1 DataBar Omnidirectional」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

GS1 Databar Omnidirectional

Minimum Length (0~80)	4
Maximum Length (0~90)	74

Minimum Length（最小長）：シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length（最大長）：シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

GS1 DataBar Limited

左側のリストで「GS1 DataBar Limited」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

GS1 Databar Limited

Minimum Length (0~80)	4
Maximum Length (0~90)	74

Minimum Length（最小長）：シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length（最大長）：シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

GS1 DataBar Expanded

左側のリストで「GS1 DataBar Expanded」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

GS1 Databar Expanded

Minimum Length (0~80)	4
Maximum Length (0~90)	74

Minimum Length（最小長）：シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length（最大長）：シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

スタック・シンボル体系

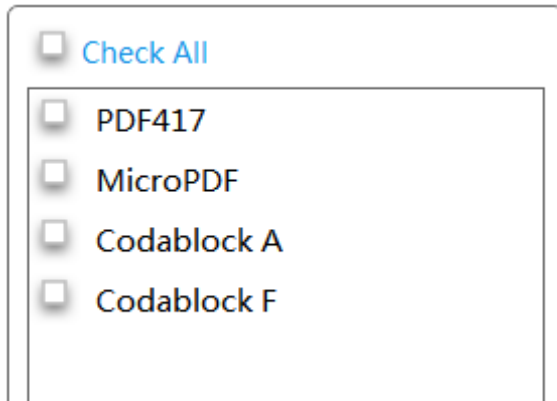
すべてのスタック・シンボル体系を有効／無効にする

DataMax の設定プログラムを開き、まずデバイスを接続します。

「Symbologies（シンボル体系）」タブ・ページに移動し、「Stacked Linear（スタックト・リニア）」サブ・ページをクリックします。

「Check All（すべてチェック）」チェック・ボックスにチェックを付けると、リスト内のスタック・シンボル体系がすべて有効になります。

チェックを外すと、リスト内のスタック・シンボル体系がすべて無効になります。

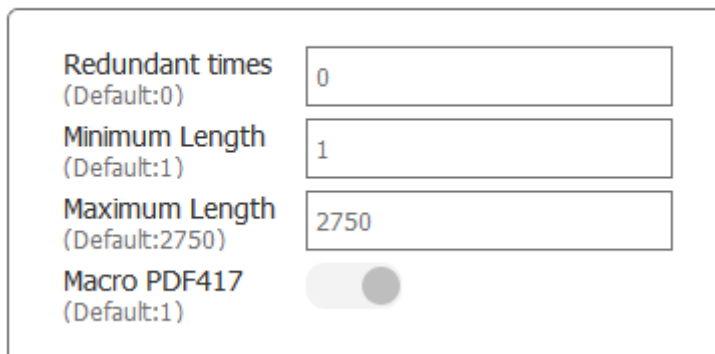


A screenshot of a software interface showing a list of symbol systems. At the top, there is a checkbox labeled 'Check All'. Below it, there is a list of four items, each with a checkbox: 'PDF417', 'MicroPDF', 'Codablock A', and 'Codablock F'. All checkboxes are currently unchecked.

PDF417

左側のリストで「PDF417」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

PDF417



A screenshot of the PDF417 parameter settings. It shows four rows of settings, each with a label and a value field:

Redundant times (Default:0)	0
Minimum Length (Default:1)	1
Maximum Length (Default:2750)	2750
Macro PDF417 (Default:1)	<input type="checkbox"/>

Redundant times（余剰回数）：同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Minimum Length（最小長）：シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length（最大長）：シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

Macro PDF417：Macro PDF417 では、非常に大量のデータを複数の PDF417 バーコードにエンコードすることができる PDF417 を実施します。これを有効にすることで、これらの複数のバーコードは単一のデータ列に組み合わせられます。

MicroPDF

左側のリストで「MicroPDF」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

MicroPDF

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Minimum Length (Default:1)	<input type="text" value="1"/>
Maximum Length (Default:366)	<input type="text" value="366"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

Codablock A

左側のリストで「Codablock A」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

Codablock A

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Minimum Length (Default:1)	<input type="text" value="1"/>
Maximum Length (Default:600)	<input type="text" value="600"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

Codablock F

左側のリストで「Codablock F」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

Codablock F

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Minimum Length (Default:1)	<input type="text" value="1"/>
Maximum Length (Default:2048)	<input type="text" value="2048"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

2次元シンボル体系

すべての2次元シンボル体系を有効/無効にする

DataMax の設定プログラムを開き、まずデバイスを接続します。

「Symbolologies (シンボル体系)」タブ・ページに移動し、「2D (2次元)」サブ・ページをクリックします。

「Check All (すべてチェック)」チェック・ボックスにチェックを付けると、リスト内の2次元シンボル体系がすべて有効になります。

チェックを外すと、リスト内の2次元シンボル体系がすべて無効になります。

<input type="checkbox"/> Check All
<input type="checkbox"/> Aztec
<input type="checkbox"/> Maxicode
<input type="checkbox"/> HanXin
<input type="checkbox"/> DataMatrix
<input checked="" type="checkbox"/> QRCode

Aztec

左側のリストで「Aztec」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

Aztec

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Minimum Length (Default:1)	<input type="text" value="1"/>
Maximum Length (Default:3832)	<input type="text" value="3832"/>
Append Mode (Default:1)	<input type="checkbox"/>
Strip Append Information (Default:1)	<input type="checkbox"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

Append Mode (連結モード) : この機能により、HF800 は、ホスト・コンピュータに送信する複数の HF800 バーコードのデータを、事前にまとめて連結できるようになりました。HF800 は、連結のトリガー文字を含む Aztec バーコードを検出すると、これらのバーコードにエンコードされた情報で決定された Aztec バーコードの数をバッファリングします。適切なコード数に達すると、データはバーコードに指定された順番で出力されます。

Strip Append Information (連結情報を削除) : 有効にすると、バーコードから連結情報が削除されます。情報の詳細については、Aztec の ISO 規格をご確認ください。デバッグ目的の場合は、このモードにより連結情報をデータと一緒に出力することができます。

MaxiCode

左側のリストで「MaxiCode」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

Maxicode

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Minimum Length (Default:1)	<input type="text" value="1"/>
Maximum Length (Default:150)	<input type="text" value="150"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

QR Code

左側のリストで「QR Code」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

QRCode

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Minimum Length (Default:1)	<input type="text" value="1"/>
Maximum Length (Default:7089)	<input type="text" value="7089"/>
Append Mode (Default:1)	<input checked="" type="checkbox"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

Append Mode (連結モード) : この機能により、HF800 は、ホスト・コンピューターに送信する複数の QR HF800 バーコードのデータを、事前にまとめて連結できるようになりました。HF800 は、連結のトリガー文字を含む QR Code バーコードを検出すると、これらのバーコードにエンコードされた情報で決定された QR Code バーコードの数をバッファリングします。適切なコード数に達すると、データはバーコードに指定された順番で出力されます。

DataMatrix

左側のリストで「DataMatrix」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

DataMatrix

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Minimum Length (Default:1)	<input type="text" value="1"/>
Maximum Length (Default:3116)	<input type="text" value="3116"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

HanXin

左側のリストで「HanXin」をクリックすると、その関連パラメーターがすべて右側に表示されます。

HanXin

Redundant times (Default:0)	<input type="text" value="0"/>
Minimum Length (Default:1)	<input type="text" value="1"/>
Maximum Length (Default:7833)	<input type="text" value="7833"/>

Redundant times (余剰回数) : 同一のバーコード情報を特定回数取得した場合に、デコード結果を出力します。

Minimum Length (最小長) : シンボル体系の長さが最小長以上である場合に、デコード結果を出力します。

Maximum Length (最大長) : シンボル体系の長さが最大長以下である場合に、デコード結果を出力します。

デコーダ設定

この章では、リーダーのアクティビティを設定するために、ほとんどのデコード関連パラメータについて記載します。DataMax の設定プログラムの「Decoding (デコード)」タブ・ページには、関連する設定がすべて含まれています。

一般設定

Re-read Delay (リリード・ディレイ)

このモードの重要なパラメータで、同じバーコードを再度読み取る前に待機する時間を設定します。リリード・ディレイを設定することで、同じバーコードを誤って再読み取りするのを防げます。不測の再読み取りを最小限に抑えるには、遅延時間を長くするのが有効です。バーコードを繰り返しスキャンする必要がある場合は、アプリケーションの遅延時間を短くしてください。

「Decoding (デコード)」タブ・ページに移動し、「Re-read Delay (ms) (リリード・ディレイ (ms))」の編集ボックスに任意の遅延時間の値を入力してください。デフォルト値 = 750ms。

この設定は、「Streaming Presentation」モードと「Presentation (プレゼンテーション)」モードで使用できます。

Information	Tuning	Symbologies	Operation Mode	Decoding
Re-read Delay(ms) (0~30000)	750			Read (0~30000)
Good Read Delay(ms) (0~30000)	0			Enab
Decode Timeout(ms) (0~2400)	155			Show

Read Timeout (読み取りタイムアウト)

このオプションを使用して、リーダーをトリガーするために外部信号またはコマンドを使用する際に、リーダーのトリガーのタイムアウト (ミリ秒) を設定します。リーダーがタイムアウトしたら、外部信号を再起動するか、トリガー・コマンドを使用してリーダーを起動することができます。

このパラメータは、External Trigger (外部トリガー) モードまたは Self-Trigger (セルフ・トリガー) モードでのみ使用できます。

Read Timeout(ms) (0~300000)	2000
--------------------------------	------

Good Read Delay (読み取り成功時の遅延)

リーダーで別のバーコードの読み取りが可能になるまでの最短時間を設定します。

このパラメータは、External Trigger (外部トリガー) モードまたは Self-Trigger (セルフ・トリガー) モードでのみ使用できます。

Good Read Delay(ms)
(0~30000)

0

Decode Timeout (デコード・タイムアウト)

リーダーが各画像のデコードにかかる最大時間を設定します。

Decode Timeout(ms)
(0~2400)

155

DPM サポート

この設定で、DPM コードのサポートを有効または無効にすることができます。

Enable DPM



Show No Read (読み取り失敗を表示)

この設定を有効にすると、リーダーはデコードに失敗したときに「NR」を出力してユーザーに通知します。

このパラメーターは、External Trigger (外部トリガー) モードまたは Self-Trigger (セルフ・トリガー) モードでのみ使用できます。

Show No Read



アウトプット・シーケンス

アウトプット・シーケンスの概要

このプログラミング・オプションにより、バーコードがスキャンされた順番にかかわらず、アプリケーションが求める順番でデータを出力するようリーダーをプログラミングすることができます (複数のシンボルをスキャンする場合)。
アウトプット・シーケンスとのマッチングを適用するために、ユーザーは実行前にマッチング・ルールを編集できます。リーダーは、マッチング・シーケンスに以下の項目を追加するのをサポートすることができます。

1 コード ID

アウトプット・シーケンス形式に適用する具体的なシンボル体系のタイプを指定できます。

2 長さ

このシンボル体系で対応可能なデータ出力長さ (最大 9999 文字) を指定します。9999 は汎用の数字で、すべての長さを示します。

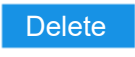
長さを計算するときは、プログラミングしたすべてのプレフィックス、サフィックス、またはフォーマットした文字を、長さの一部としてカウントする必要があります (9999 を使用する場合を除く)。

3 キャラクター一致シーケンス

一致させたい最初のキャラクターを指定します。99 は汎用の数字で、すべてのキャラクターを示します。

Add Code

「Decoding (デコード)」タブ・ページで  ボタンをクリックする

と、項目を 1 つ追加できます。  ボタンをクリックすると、リストから項目を 1 つ削除できます。

ID	Code Type	Length	Head String		
1	Code 39	12	A	Delete	Down
2	Code 128	13	B	Delete	Up, Down
3	Code 93	12	C	Delete	Up

Up および Down ボタンをクリックして、項目の順番を調整することもできます。

すべての項目を調整したら、Active をクリックしてリーダーに編集したアウトプット・シーケンスを設定します。
このシーケンスは直ちに有効になります。

アウトプット・シーケンスの設定パネル

アウトプット・シーケンスとのマッチングを有効にするには、以下のいくつかの設定も行わなければなりません。

Output Mode	Off	Separator	
Transmit Partial Sequence	<input type="checkbox"/>	Partial Prefix	
Partial Prefix		Partial Suffix	
Total Timeout (0-9999)	0	Code Sequence	Random

Output Mode (出力モード)

アウトプット・シーケンスが **Off (オフ)** の場合、バーコード・データはリーダーがデコードしたままホストに出力されます。

アウトプット・シーケンスが **Required (要求する)** の場合、すべての出力データは編集したシーケンスと一致している必要があり、一致していない場合、リーダーは出力データをホスト・デバイスに送信しません。

On/Not Required (有効/要求しない) の場合、リーダーは出力データが編集したシーケンスと一致するように試みますが、一致しない場合、リーダーはすべての出力データをそのままホスト・デバイスに送信します。

No Rule (ルールなし) の場合、出力データは編集したシーケンスと一致しませんが、デコードされたすべてのデータをバッファし、タイムアウト発生時またはデータ数がスキャン回数と一致する場合にそれらを出力します。スキャン回数を設定することもできます。

Transmit Partial Sequence (部分シーケンスを送信)

アウトプット・シーケンスの操作が、そのすべての条件を満たす前に終了した場合、その時点までに取得したバーコード・データは「部分シーケンス」です。

この機能を無効にすると、アウトプット・シーケンスの操作が完了する前に終了した場合、部分シーケンスは破棄されます。

この機能を有効にすると、部分シーケンスは送信されます（一致するデータのないシーケンスのフィールドは出力時にすべてスキップされます）。

Partial Prefix (部分プレフィックス)

この設定では、部分アウトプット・シーケンスにプレフィックスを追加します。

Partial Suffix (部分サフィックス)

この設定では、部分アウトプット・シーケンスにサフィックスを追加します。

Separator (セパレーター)

この設定では、アウトプット・シーケンスにセパレーターを追加します。

Code Sequence (コード・シーケンス)

この設定では、シーケンス出力時の出力順ルールを制御します。

Random (ランダム) :

バーコードの結果がランダムに出力されます。

Top-Bottom (上から下) :

バーコードの結果が、画像内の調整に応じて上から下に出力されます。

Left-Right (左から右) :

バーコードの結果が、画像内の調整に応じて左から右に出力されます。

Total Timeout (全体のタイムアウト)

設定したシーケンス全体を読み取る際のタイムアウト。タイマーが切れると、現在の読み取りプロセスは停止します。

入出力設定

入力チャネル設定

このリーダーでは、入力1と入力2の2つの極性に依存しないフォトカプラー入力を使用できます。外部トリガーと同じ機能を使用できます。主な機能は、外部トリガーモードの取得トリガーです。デフォルトで、入力1と入力2のPolarity（極性）はNONE（なし）に設定されており、入力信号はユーザーが完全にプログラミングすることができます。

極性とデバウンス時間

DataMax の **I/O** タブを選択します。

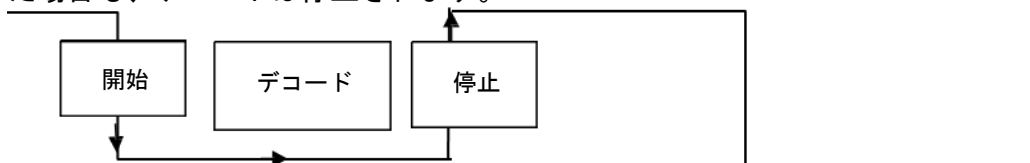
Information	Tuning	Symbologies	Operation Mode	Decoding	Interface	I/O	Data	Debug	
Input		1		2					
Polarity	NONE		NONE						
Debounce Time(ms)	2		2						
Output		1		2					
Message/Event	Off		Off						
Duration Time(ms)	100		100						
Output Delay Time(ms)	100		100						

1. **Polarity（極性）**：これらの入力のアクティブな状態は **NONE（なし）**、**Rising Edge（立ち上がりエッジ）**、**Falling Edge（立ち下がりエッジ）**、**Low Level（低レベル）**、**High Level（高レベル）** です。
2. **Debounce Time（デバウンス時間）**：障害防止フィルター。値はソフトウェアのパラメーターによって変更できます。

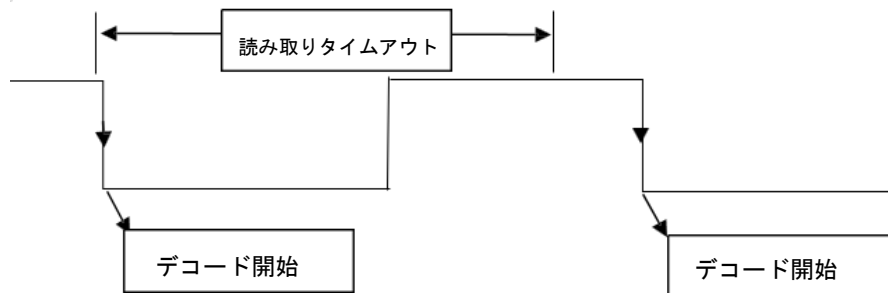
入力1または入力2を外部トリガーとして動作するように設定するには、Operation Mode（操作モード）を External Trigger（外部トリガー）モードに設定する必要があります。External Trigger（外部トリガー）モードには、**One Shot（1回）モード**、**Burst（バースト）モード**、**Continuous（連続）モード**の作業モードを選択できます。

例：

Polarity（極性）に Low Level（低レベル）を選択した場合は、Working Mode（作業モード）を **Continuous（連続）モード** に設定します。Low Level（低レベル）はバーコードのデコードを開始し、High Level（高レベル）はデコードを停止します。Low Level（低レベル）での作業中にリーダーがバーコード・データを取得した場合も、デコードは停止されます。



Falling Edge（立ち下がリエッジ）を選択した場合は、Working Mode（作業モード）を **Continuous（連続）モード** に設定します。立ち下がり信号により、バーコードのデコードが開始されますが、読み取りタイムアウトが経過するまで、または正しいバーコード・データを取得するまでは停止します。



出力チャネル設定

2つの汎用フォトカプラー出力を使用できます。出力1と出力2の2つの出力の意味は、ユーザーが定義できます。通常、これらの出力は、データ収集結果について信号を送信したり、外部照明システムを制御したりするために使用されます。

次に、出力1と出力2の設定について説明します。

Output	1	2
Message/Event	Good Read	Good Read
Duration Time(ms)	100	100
Output Delay Time(ms)	100	100

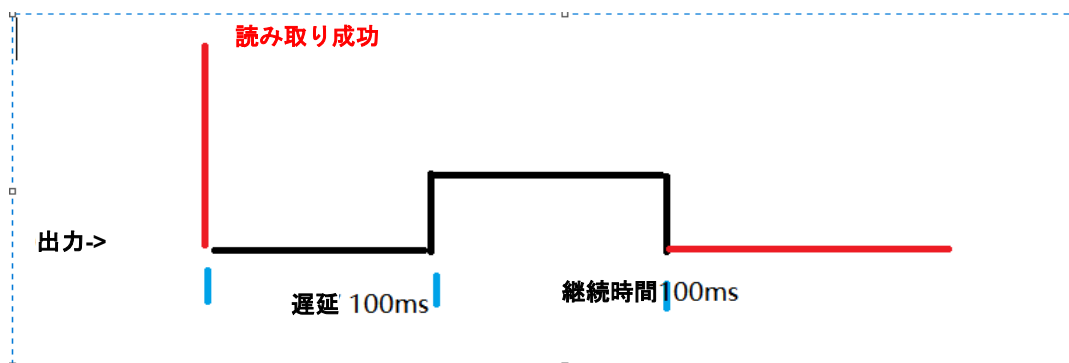
Message/Event（メッセージ/イベント）：デフォルトで、出力信号のEvent（イベント）はOFF（オフ）に設定されており、設定済みの**Good Read（読み取り成功）**イベント、**No Read（読み取り失敗）**イベント、**Error Read（読み取りエラー）**イベントのいずれかによって完全にプログラミングすることができます。

No Read（読み取り失敗）イベント：外部トリガーによって送信されたコードがデコードされない場合に有効になります。

Good Read（読み取り成功）イベント：選択したコードがすべて正しくデコードされた場合に有効になります。

例：

出力1をGood Read（読み取り成功）イベントに設定した場合、継続時間は100ms、出力遅延時間は100msです。



データ編集とフォーマット

プレフィックス／サフィックスの概要

バーコードをスキャンすると、バーコード・データとともに、追加情報がホスト・コンピューターに送信されます。このバーコード・データと追加のユーザー定義データのグループは、「メッセージ文字列」と呼ばれます。この節のオプションは、メッセージ文字列にユーザー定義データを組み込むために使用されます。

プレフィックスとサフィックスのキャラクターは、それぞれスキャン・データの前後に送信できるデータ・キャラクターです。データ・キャラクターは、すべてのシンボル体系と送信するか、特定のシンボル体系とのみ送信できます。

プレフィックス	スキャン・データ	サフィックス
---------	----------	--------

プレフィックス／サフィックスの選択

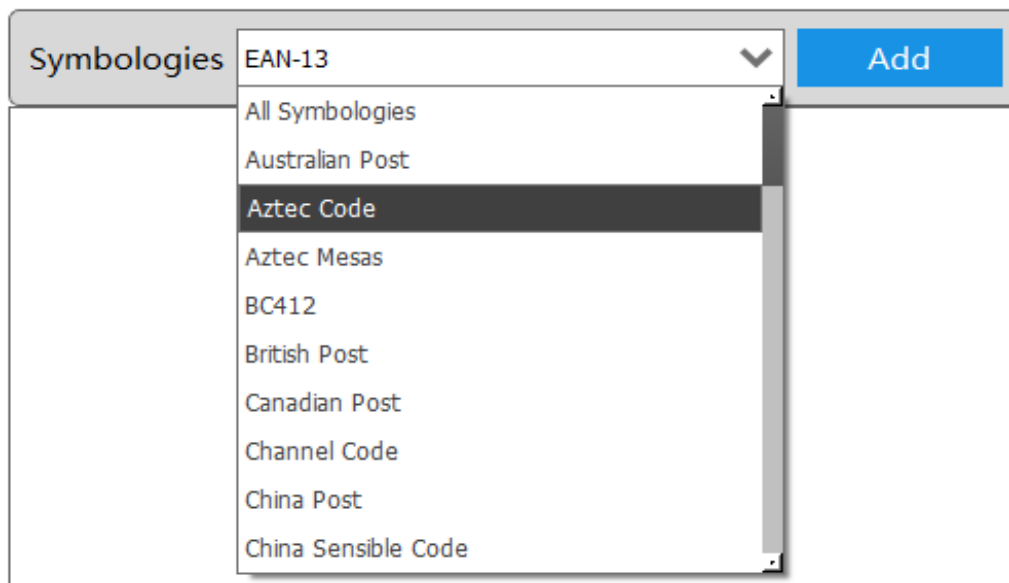
「Data（データ）」タブを選択します。

The screenshot shows a software interface with several tabs: Information, Tuning, Symbologies, Operation Mode, Decoding, Interface, I/O, Data (selected), and Debug. The 'Symbologies' section contains a dropdown menu with 'All Symbologies' selected and an 'Add' button. Below this is a 'Settings' section with 'Prefix' and 'Suffix' labels and corresponding input fields. The 'Data' section contains a dropdown menu with 'Full Code String' selected, 'Add', and 'Active' buttons. At the bottom of the 'Data' section is a checkbox labeled 'Advance Mode(Use Command Line)'.

1 つまたはすべてのシンボル体系からプレフィックスまたはサフィックスが追加またはクリアされます。リストから Symbologies（シンボル体系）を選択し、

Add

ボタンをクリックします。



Settings (設定) の Prefix (プレフィックス) / Suffix (サフィックス) チャート・ボックスに出力に表示するキャラクターを入力します。

デフォルトのプレフィックス = なし

デフォルトのサフィックス = なし

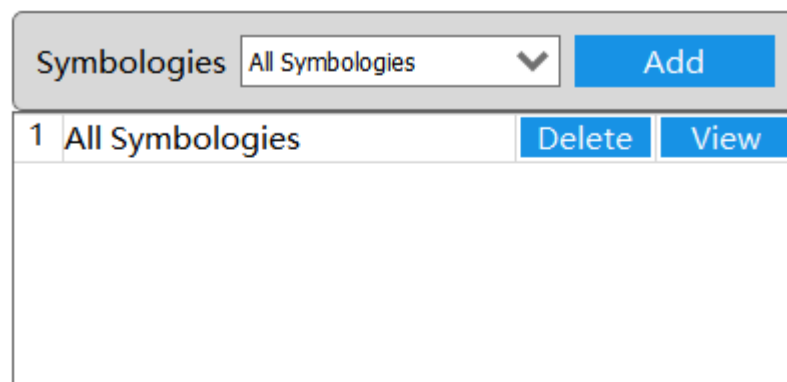
Settings

Prefix

Suffix

例 :

1. All Symbologies (すべてのシンボル体系) を選択します。



Settings

Prefix

Suffix

2. 以下のバーコードを使用します。データが以下のとおり出力されます。

ABC1234567890ABCDEFGHIJED33



1234567890ABCDEFGHIJ

3. プレフィックスとサフィックスをクリアします。

プレフィックス : **ABC** またはサフィックス : **ED33** のみを削除します。

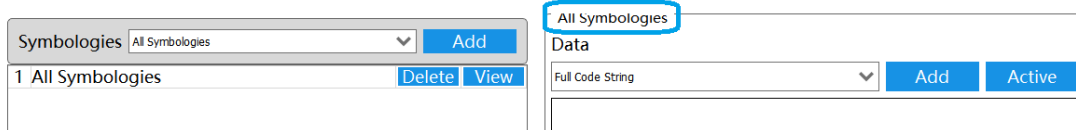
データ・フォーマット・エディターの概要

データ・フォーマット・エディターを使用して、デバイスの出力を変更できます。たとえば、スキャン中にバーコード・データの任意のポイントにキャラクターを挿入します。以降のページのオプションは、出力を変更する場合にのみ使用してください。デフォルトのデータ・フォーマット設定 = なし
データ・フォーマット設定の最大サイズは、2000 バイトです（ヘッダー情報を含む）。

データ・フォーマットを追加する

手順 1 : **Data** タブを選択します。

手順 2 : Symbolologies (シンボル体系) リストからシンボル体系を選択し、**View** をクリックして詳細設定を選択します。

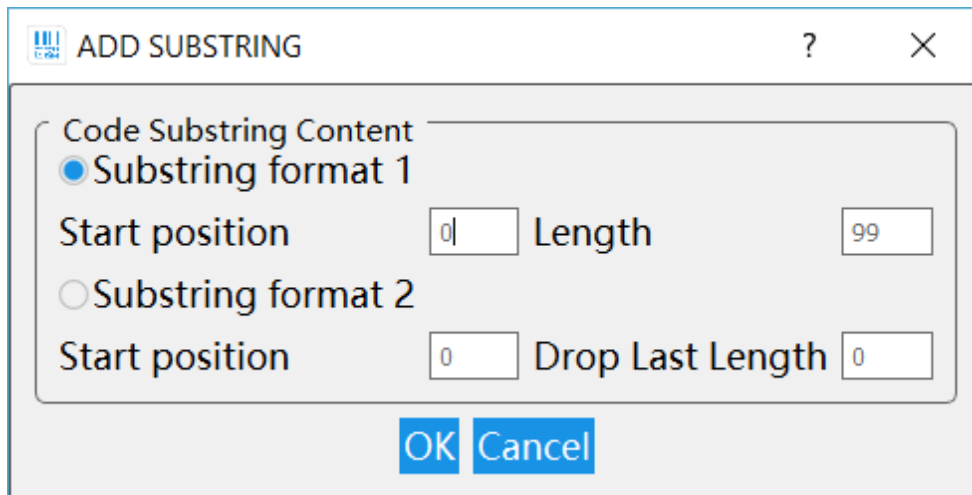


手順 3 : 4 つのデータ・フォーマットから選択できます。

注 : データ・フォーマット・エディターで作業する場合、仮想カーソルが入力データの文字列に沿って移動します。以下のコマンドは、このカーソルを別の位置に移動し、またデータを選択し、置換し、最終出力に挿入するために使用されません。

Full Code String (コード文字列全体) : 出力メッセージに、現在のカーソル位置以降の入力メッセージのキャラクターと、それに続く挿入キャラクターをすべて含めます。

Sub Code String (サブ・コード文字列) : 出力メッセージに、いくつかのキャラクターと、それに続く挿入キャラクターを含めます。ユーザーが入力する「Start position (開始位置)」から、「Length (長さ)」で指定したキャラクター数、または「Drop Last Length (最後の長さを切り捨て)」で指定した値で切り捨てた入力メッセージのキャラクター数までです。

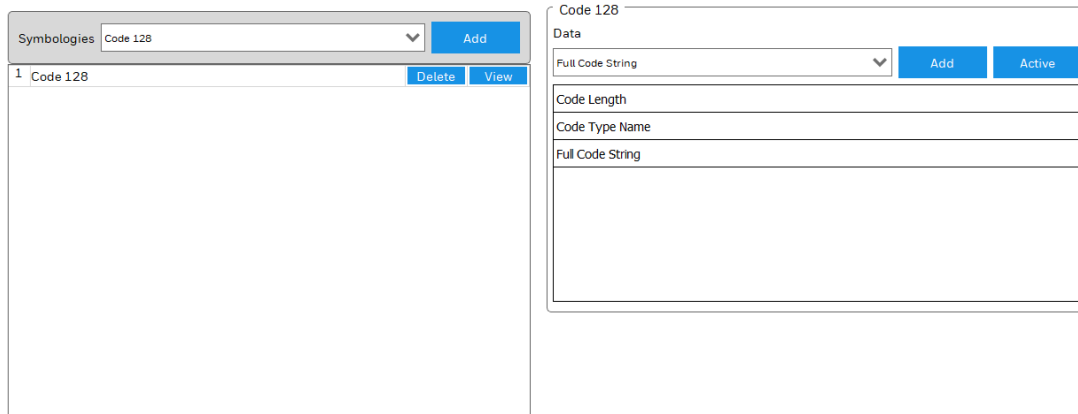


Code Type Name (コード・タイプ名) : カーソルを動かさずに、出力メッセージにバーコードのシンボル体系の名前を挿入します。Honeywell の ID を持つシンボル体系のみが含まれています。

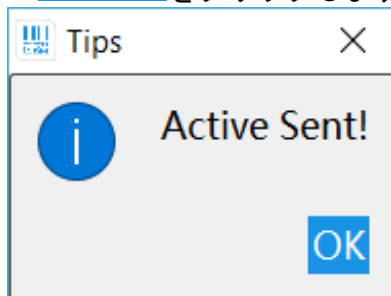
Code Length (コード長) : カーソルを動かさずに、出力メッセージにバーコードの長さを挿入します。長さは数字の文字列として表され、先行ゼロは含まれません。

例 :

1. データ・フォーマットを追加します。



2. **Active** をクリックします。



3. 以下のバーコードを使用します。データが以下のとおり出力されます。
20Code1281234567890ABCDEFGHIJ



4. データ・フォーマットをクリアします。

削除するフォーマットを選択し、**Active** をクリックします。

Code Length
Code Type Name
Full Code String
Delete

アドバンス・モード（コマンド・ライン）

アドバンス・モードを使用するには：

Advance Mode(Use Command Line)

DFMBK3

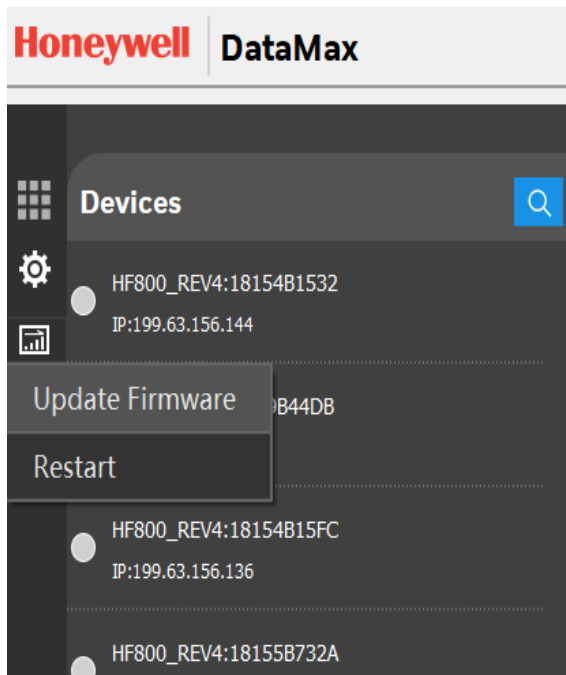
アドバンス・モードでは、コマンド・ラインを使用してデータ・フォーマットを編集できます。より多くのデータ・フォーマットを、より柔軟に使用できます。

メンテナンス

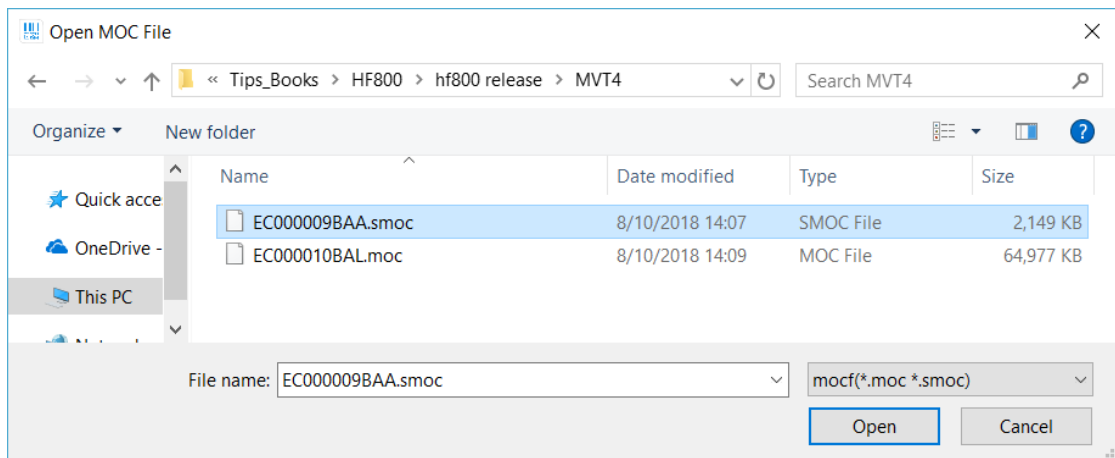
ファームウェアのアップグレード

リーダーが最高の状態で動作するよう、スキャン性能を向上するために、リーダーのファームウェアをアップデートします。DataMax では、リーダーのファームウェアをアップグレードすることができます。

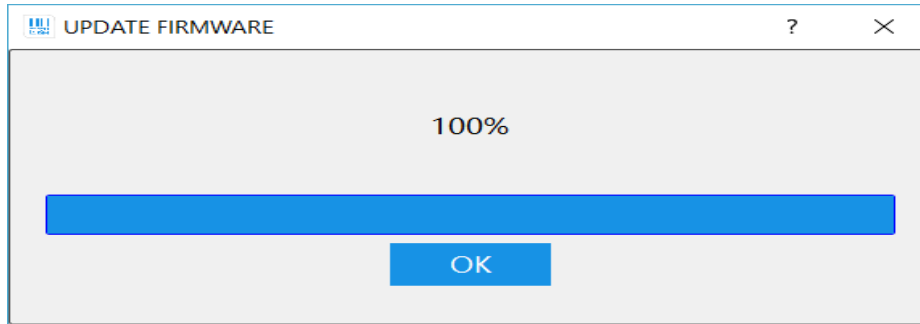
1. Update Firmware（ファームウェアのアップデート）タブをクリックします。



2. 「choose file（ファイルを選択）」をクリックし、「.SMOC」ファイルを選択します。




3. 「Open（開く）」をクリックし、アップデートが完了するのを待ちます。ファイルの転送が完了すると、デバイスは自動的に再起動します。アップグレード中は、デバイスの電源をオフにしないでください。



トラブルシューティング

問題	解決策	レビュー担当者
DataMax のインストールについて	以下の点を確認してから、再度ソフトウェアをインストールしてください。 <ul style="list-style-type: none"> • 管理者権限 ソフトウェアをインストールするには、管理者権限を持つユーザーとしてログオンしてください。 • セキュリティ・ソフトウェア セキュリティ・ソフトウェアがインストールの妨げになっている可能性があります。セキュリティ・ソフトウェアを一時的に無効にしてください。 	Bruce
DataMax の実行について	インストール後に初めて実行する場合、DataMax はファイアウォールによってブロックされていることがあります。また、DataMax のネットワークへのアクセスを確認するようシステムから求められる場合があります。すべて許可するオプションをクリックしてください。	Bruce
電源をオンにしても「POWER（電源）」LED が点灯しない	電源に接続していますか？ 電源アダプターを使用している場合は、必ず Honeywell が推奨する電源アダプターを使用してください。 お客様のデバイスから本機に電源を供給する場合は、コネクタの Vin と GND が適切に配線されていることを確認してください。詳細については、 ?ページ を参照してください。	Tom/Harry
DataMax に接続できない	以下の点を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • RS232/485 接続 (?ページ) • イーサネット接続 (?ページ) 本機が関連する作業モードと同様に、適切に設定されていることを確認してください。	Tom/Harry

<p>デバイス・リスト領域にデバイスが表示されない</p>	<p>DataMax でデバイスを検出するには、オンライン・デバイスの電源をオンにし、ローカル・エリア・ネットワークに接続する必要があります。このリスト内に使用するデバイスが表示されない場合は、デバイスが LAN に接続されているか、また電源がオンになっているか確認してください。その後、Search (検索) アイコン  をクリックし、新たにデバイスの検索を実行してください。</p> <p>デバイスがシリアル・ポートを介して接続されている場合は、必ず正しいパラメーターを選択してください (Data Bits (データ・ビット) / Stop Bits (ストップ・ビット) / Parity (パリティ))。</p>	<p>Bruce</p>
<p>読み取り失敗</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 移動するコードがリーダーの視野の外にある場合は、Acquisition Delay on Trigger (トリガーの取得遅延) を調整してください。 - 使用可能な外部トリガー・ソースがない場合は、Operation Mode (操作モード) を Streaming Presentation / Presentation (プレゼンテーション) に設定してください。 - イメージング設定を微調整してコードの画質を改善してください。 - Symbologies (シンボル体系) 設定手順の、2D、Linear (リニア)、および Stacked Linear (スタックド・リニア) のコードのパラメーター設定を確認してください。 - フル解像度のコード画像で、印刷またはマーキングの品質を確認してください。 	<p>Bruce/Donald</p>
<p>外部トリガー・ソースまたはソフト・トリガーでデバイスをトリガーできない</p>	<p>外部センサーは正しく配線されていますか？外部センサーのパラメーターに従って、I/O 入力を確認してください。</p>	<p>Tom/Bruce</p>
<p>通信：デバイスからホストに何も送信されない</p>	<p>配線が適切に接続されていることを確認してください。設定が実際の作業モードに関連づけられていることを確認してください。ホストのシリアル・ポート設定はリーダーのシリアル・ポート設定と同じですか？</p>	<p>Tom/Harry/Bruce</p>
<p>通信：ホストに送信されたデータが正しくない</p>	<p>DataMax のデータ・フォーマットの手順で、プレフィックスおよびサフィックス文字列とその他のパラメーターの設定を確認してください。</p>	<p>Bruce</p>

カスタマー・サポート

技術支援

デバイスのインストールまたはトラブルシューティングについて支援を必要とする場合は、以下のいずれかの方法でお問い合わせください。

ナレッジ・ベース：www.hsmknowledgebase.com

ナレッジ・ベースでは、多数の直接的な解決方法を提供しています。ナレッジ・ベースで解決できない場合は、テクニカル・サポートのポータル（下記参照）から簡単な方法で問題を報告したり、質問したりすることができます。

テクニカル・サポートのポータル：www.hsmsupportportal.com

テクニカル・サポートのポータルでは、問題を報告できるだけでなく、ナレッジ・ベースを検索してユーザーの技術的な問題の直接的な解決方法を得ることができます。ポータルでは、質問の投稿や追跡をオンラインで行い、添付ファイルを送受信することができます。

Web フォーム：www.hsmcontactsupport.com

当社のテクニカル・サポート・チームには、オンライン・サポート・フォームに記入することで、直接問い合わせることができます。ご自身の連絡先情報と、質問／問題の内容を記入してください。

電話：www.honeywellaidc.com/locations

最新の連絡先情報については、上記リンクから当社 Web サイトをご確認ください。

製品サービスおよび修理

Honeywell International Inc.は、世界各地に展開しているサービス・センターを通じて、すべての製品を対象にサービスを提供しています。サービスを受けるには、保証対象であるかどうかにかかわらず、www.honeywellaidc.com の **Support（サポート）** > **Contact Service and Repair（サービスおよび修理窓口）** を選択し、お客様の地域の RMA #（Return Material Authorization number、返品確認番号）を取得する方法について、指示を確認してください。必ず返品する前に確認してください。

限定保証

Honeywell International Inc.（「HII」）は、出荷時にその製品の材料および製造品質に欠陥がなく、ご購入いただいた製品に適用される HII の公式な仕様に適合していることを保証します。次の HII 製品は保証の対象になりません。（i）不正に設置または使用されたもの、（ii）適切なメンテナンス、サービス、および清掃のスケジュールに従わずに損傷したものを含む、事故または過失によって損傷したもの、または（iii）次の事由により損傷したもの：（A）購入者または第三者による改変または改造、（B）インターフェイス接続への過電圧または過電流の供給または流入、（C）静電気または静電気放電、（D）指定の動作パラメーターを超える条件での使用、または（E）HII またはその正規代理店以外の人間による製品の修理またはサービス。この保証は、出荷時から HII が公式に定めた期間、購入時に製品に対して適用されるものとします（「保証期間」）。欠陥品は、点検のため、必ず保証期間内に HII の工場または正規サービス・センターに返品してください（送料は購入者負担です）。HII では、返品確認番号のない製品は受け付けません。返品確認番号は、HII に連絡して入手してください。製品が保証期間内に HII または正規サービス・センターに返品され、HII で材料および製造品質の欠陥によって製品が損傷したことが十分に確認できた場合、HII の判断で製品を無償で修理または交換します（ただし、HII に返品する際の送料は購入者負担です）。

該当する法律によって別途規定されている場合を除き、前述の保証は、明示的か黙示的か、口頭か書面かを問わず、商品性または特定目的に対する適合性または非侵害に関するすべての黙示的な保証を含むがこれらに限定されない、その他のあらゆる契約または保証に代わるものです。

この保証による HII の責任と購入者の排他的な救済は、欠陥品の修理または新品または再生品の部品との交換に限定されます。どのような場合も、HII が間接的、偶発的、または結果的な損傷について責任を負うことはありません。また、どのような場合も、本契約に基づいて販売されたすべての製品に関して生じた HII の賠償責任は（そのような責任が契約、保証、不法行為などに基づく請求であるか否かにかかわらず）、製品のために実際に HII に支払われた金額を超えないものとします。これらの責任の制限は、けが、損失、または損害の可能性について HII が事前に知らされていたとしても、完全な効力と効果を持ち続けます。一部の州、地域、または国では、偶発的または結果的な損害の除外または制限を認めていないため、該当する場合は前述の制限および除外が適用されない場合があります。

この限定保証の条項は区分されており、分離可能です。つまり、いずれかの条項が無効になり、履行不能になった場合でも、その決定は他の条項の履行の有効性には影響を及ぼしません。製造業者が提供していない周辺機器を使用して生じた損傷は、この保証の対象にはなりません。

この周辺機器にはケーブルや電源が含まれますが、これらに限定されません。HII では、これらの保証を製品の最初のエンドユーザーにのみ適用します。これらの保証を譲渡することはできません。

HF800 リーダーの限定保証期間は、3 年間です。

付録 A

ネットワーク DHCP を有効にします。この機能は、デバイス再起動後に有効になります。



NWKDHP1.

ネットワーク DHCP を無効にします。この機能は、デバイス再起動後に有効になります。



NWKDHP0.

リーダーをリブートします。



RESET.

日本ハネウェル株式会社
セーフティ & プロダクティビティソリューションズ
〒105-0022 東京都港区海岸 1-16-1
ニューピア竹芝サウスタワー20階
電話：03-6730-7344 FAX：03-6730-7224
HSMJapanInquiry@Honeywell.com
<https://honeywell.co.jp>



ウェルコムデザイン株式会社

URL: www.e-welcom.com
e-mail: welcom@e-welcom.com

本社 〒651-2228 兵庫県神戸市西区見津が丘1-13-3
TEL. 078-994-5333(代) FAX. 078-994-5400

東京本社 〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-3 神田大木ビル
TEL. 03-5295-7250(代) FAX. 03-5295-7252